

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	責任者	小池 武則	
1		基礎理化学	開講時期	1年前期			
			授業時間	60			
授業形態		対面	☐ 実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 様々な臨床で5年以上の経験を持つ複数の理学療法士専任教員による授業で、理学療法士国家試験に相当する分野を、小学校・中学校・高等学校のカリキュラムと紐づけをしながら、理学療法士になるために必要な知識にはどのようなものがあるのかを学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所)		
					特に指定しない		
					キーワード		①内部障害 ②神経障害 ③運動器障害 ④ADL ⑤法律
教育目標該当項目							
③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法概論	理学療法士について		小池		
第2回	2	運動器	関節の構造と機能について		小池		
第3回	2	運動器	主要な骨・関節について		菊地		
第4回	2	循環器	血液、心臓、脈管について		山野井		
第5回	2	神経系	中枢神経・脳について		高澤		
第6回	2	バイオメカニクス	歩行・姿勢について		臂		
第7回	2	呼吸器	呼吸について		山野井		
第8回	2	運動器	主要な筋について		菊地		
第9回	2	医療制度	PTが関与する法律について①		小川		
第10回	2	末梢神経	末梢神経について		高澤		
第11回	2	統計	感度・特異度について		小池		
第12回	2	代謝	運動とエネルギーについて		山野井		
第13回	2	消化器	食事とエネルギーについて		山野井		
第14回	2	脳神経	脳幹・脳神経について		臂		
第15回	2	理学療法概論	PTが関与する法律について②		小川		
第16回	2	その他	自律神経について		持田		
第17回	2	老年	老いについて		持田		
第18回	2	泌尿器	排尿について		山野井		
第19回	2	発達	こどもの成長について		臂		
第20回	2	病理	炎症・免疫について		持田		
第21回	2	神経病態	運動麻痺・運動失調について		高澤		
第22回	2	腫瘍	悪性腫瘍について		持田		
第23回	2	ADL	患者の生活環境について		高澤		
第24回	2	評価	ROM測定・形態測定について		菊地		
第25回	2	運動療法	主要なストレッチ・筋力トレーニングについて		菊地		
第26回	2	心理	防衛機制・心理発達について		小川		
第27回	2	脊髄損傷	脊髄損傷者の生活について		小池		
第28回	2	精神医学	統合失調症・うつ病について		小川		
第29回	2	補装具	常歩行について		臂		
第30回	2	物理療法	温熱・寒冷・電気の身体への影響について		小池		
評価方法		評価指標にて⑦講義中に作成したノート、⑨小テスト結果、⑪反復学習実施状況を評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	持田 誠	
2	× : 非該当	医療概論	開講時期	1年前期			
			授業時間	30			
授業形態		ハイフレックス	☒ 実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として10年整形外科系病院で勤務した経験から医療と基礎医学の関連について学ぶ。また疾病の成り立ちについて理解するとともに、主な疾患についての概念を深める。					教科書(著者/書名/発行所)		
					特に指定せず		
					キーワード 医療と理学療法、疾病と障害、保険・福祉と理学療法、予防、医療行為、基礎医学		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	医療概論1	医療とは			持田	
第2回	2	医療概論2	医療とは			持田	
第3回	2	医療概論3	疾病			持田	
第4回	2	医療概論4	疾病			持田	
第5回	2	医療概論5	障害と疾患の予防			持田	
第6回	2	医療概論6	理学療法と疾患			持田	
第7回	2	医療概論7	基礎医学との関連			持田	
第8回	2	医療概論8	基礎医学との関連			持田	
第9回	2	医療概論9	基礎医学との関連			持田	
第10回	2	医療概論10	基礎医学との関連			持田	
第11回	2	医療概論11	基礎医学との関連			持田	
第12回	2	医療概論12	基礎医学との関連			持田	
第13回	2	医療概論13	基礎医学との関連			持田	
第14回	2	医療概論14	リスク			持田	
第15回	2	医療概論15	リスク			持田	
評価方法		評価指標にて⑥⑦成果物(講義資料、講義中に作成したノート)、⑨成果物(小テスト結果)を評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	責任者	菊地 潤	
3	× : 非該当	コミュニケーション論	開講時期	1年通年			
			授業時間	30			
授業形態		対面	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として整形外科病院、診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、社会で必要とされるコミュニケーション能力と理学療法を学ぶなかで必要とされる基本的な文書作成について学ぶ。また一般的なマナーを学び実践しながら理解を深めていく。					特に定めない。		
教育目標該当項目					キーワード		
①③④⑤⑥					①社会的マナー		
					②自己管理		
					③文書作成		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	顔合わせ	学生・教員と話をすることができる。			専任	
第2回	2	伝え方	挨拶、教員への声かけ、学校への電話連絡が模倣できる。			専任	
第3回	2	自己管理①	時間管理・健康管理・感情管理を理解できる。			専任	
第4回	2	自己管理②	上記を踏まえて模倣できる。			専任	
第5回	2	マナー①	実習に向けて適した身だしなみ(スーツ)を理解できる。			専任	
第6回	2	文書作成①	レポートの書き方を理解し模倣できる。			専任	
第7回	2	コミュニケーション	コミュニケーションの種類を理解できる。			専任	
第8回	2	コミュニケーション練習①	伝え方・聞き方を理解し、対話の中から情報を収集できる。			専任	
第9回	2	コミュニケーション練習②				専任	
第10回	2	コミュニケーション練習③				専任	
第11回	2	文書作成②	見学時のメモの取り方、日報の書き方を理解し模倣できる。			専任	
第12回	2	見学練習①	変形性膝関節症の理学療法を見学し、日報を作成できる。			専任	
第13回	2	見学練習②	脳卒中維持期の理学療法を見学し、日報を作成できる。			専任	
第14回	2	文書作成③	お礼状の書き方を理解できる。			専任	
第15回	2	マナー②	実習に向けて適した身だしなみ(白衣)を理解できる。			専任	
評価方法		成果物、実技試験、および授業態度を総合的に評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	井古田 大介
4	○:該当	心理学	開講時期	1年前期		
			授業時間	30		
授業形態 対面		☒ 実務経験のある教員による授業			単位数 2 単位	講義
科目概要・目的 臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院13年の実務経験を活かし、人間理解の方法を心理学的観点から解説する。演習形式を取り入れながら、幅広く学び、科学としての心理学の持つ方法論、研究内容、日常生活への応用などについて理解を深める。また、さまざまな心理アセスメント方法を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 鈴木伸一(編)「対人援助と心のケアに活かす心理学」 有斐閣ストウディア	
					キーワード アセスメント 心理検査 インタビュー面接	
					教育目標該当項目 ①④	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	総論	心理学とは			井古田
第2回	2	知覚と認知	知覚と認知の心理の働きを理解する。			井古田
第3回	2	感情(1)	感情と情緒の心理の働きを理解する。			井古田
第4回	2	感情(2)	感情と情緒の心理の働きを理解する。			井古田
第5回	2	欲求と動機(1)	欲求と動機の心理の働きを理解する。			井古田
第6回	2	欲求と動機(2)	欲求と動機の心理の働きを理解する。			井古田
第7回	2	学習(1)	学習の心理(古典的条件づけ)の働きを理解する。			井古田
第8回	2	学習(2)	学習の心理(オペラント条件づけ)の働きを理解する。			井古田
第9回	2	学習(3)	学習の心理(観察学習)の働きを理解する。			井古田
第10回	2	記憶	記憶の心理の働きを理解する。			井古田
第11回	2	発達と成長(1)	発達の心理(誕生から学童期)の働きを理解する。			井古田
第12回	2	発達と成長(2)	発達の心理(青年期から老年期)の働きを理解する。			井古田
第13回	2	社会と組織(1)	社会における心理と行動について理解する。			井古田
第14回	2	社会と組織(2)	社会における心理と行動について理解する。			井古田
第15回	2	総括	まとめ			井古田
評価方法		小テスト・総合テスト、および授業態度を統合的に評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	小松 昌久
5	○:該当	人間発達学	開講時期	1年後期		
			授業時間	15		
授業形態		ハイフレックス			☑実務経験のある教員による授業	
科目概要・目的 理学療法士として35年間、一般病院等での小児領域に対するリハビリテーションの経験を活かした講義で、子どもの発達を通し運動獲得の過程を学び動作獲得のための運動療法実施のための背景に役立つように学習を進める。運動獲得と心身の成長について学び関わり方について説明できるようになる。					単位数	1 単位
					講義	
					教科書(著者/書名/発行所)	
					上杉雅之 監修「イラストでわかる小児理学療法」医歯薬出版	
教育目標該当項目 ①②					キーワード	
					運動発達・精神社会的発達・発達検査	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	発達とは。概念,理論	発達の言葉の定義と理論について説明できる。			小松
第2回	2	運動発達0－3	生後0か月から3ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。			小松
第3回	2	運動発達4－6	生後4か月から6ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。			小松
第4回	2	運動発達7－9	生後7か月から9ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。			小松
第5回	2	運動発達10－12	生後10か月から12ヶ月の運動発達の特徴を説明できる。			小松
第6回	2	姿勢・反射・反応	原始反射・姿勢反射について姿勢獲得の時期と関連付けて説明できる。			小松
第7回	2	発達検査	様々な発達検査について概要を説明できる。			小松
第8回	2	身体の発達	身体的な変化と姿勢・動作獲得が関連づけて説明できる。			小松
評価方法		小テスト・総合テスト・成果物・授業態度を統合的に評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	臂 貴紀	
6	× : 非該当	情報統計論	開講時期	1年前期			
			授業時間	30			
授業形態 対面		□実務経験のある教員による授業			単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 パソコンを用いた報告書を作成する能力を身につける。また、理学療法実践者として、先人たちの記述した論文や、検査結果の判定に用いられる基準値、基準範囲について学び、対象者の問題に側した情報を集め、知識を整理し、解決のための行動をとれるようにする。					教科書(著者/書名/発行所) Microsoft Word, Excel, PowerPoint同等のソフトがインストールされたパソコンを用意してください。		
					キーワード		
					記述統計、感度、特異度、尤度比、有意差		
教育目標該当項目 ②③⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	パソコンの基本操作	基本的なパソコンの操作方法を学ぶ。			臂	
第2回	2	〃	オンライン講義の受講のために必要な操作・知識を身に着ける。			臂	
第3回	2	システムの利用	学びばこの使用方法等を理解する。			臂	
第4回	2	〃	google class roomでのグループワークなどを行える。			臂	
第5回	2	Word	基本的な書類作成ができる。			臂	
第6回	2	〃	ジェノグラム等の学習と共に図形や画像の操作が行える。			臂	
第7回	2	Excel	基本的な表計算ができる。			臂	
第8回	2	〃	表計算で求めた値をグラフや表にまとめることができる。			臂	
第9回	2	医療統計	データの尺度、特性値、グラフの種類			臂	
第10回	2	〃	標本、正規分布、平均、有意確立			臂	
第11回	2	〃	基準値、基準範囲、感度、特異度			臂	
第12回	2	〃	帰無仮説、検定方法の種類			臂	
第13回	2	〃	1標本の差の検定			臂	
第14回	2	〃	2標本の差の検定			臂	
第15回	2	〃	相関			臂	
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)を評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	責任者	菊地 潤	
7	× : 非該当	基礎運動学	開講時期	1年通年			
			授業時間	60			
授業形態		対面	☑実務経験のある教員による授業		単位数	1 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院、診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成について解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。前半では主に関節の構成、関節の運動を学ぶ。後半では動作での関節運動の記載方法から支持基底面や重心の関係、力学的な分析を行う。					教科書(著者/書名/発行所)		
					宮本省三・他 著『人間の運動学』協同医書出版		
					石井慎一郎 編著「動作分析臨床活用講座」メディカルビュー社		
教育目標該当項目 ②					キーワード		
					①関節運動 ②運動学習 ③起居移動動作		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	肩関節複合体の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地		
第2回	2	肩の運動学①	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第3回	2	肩の運動学②	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第4回	2	肘関節・前腕・手関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地		
第5回	2	肘・前腕・手関節の運動学	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第6回	2	手部・手指の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地		
第7回	2	手の運動学	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第8回	2	股関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地		
第9回	2	股の運動学①	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第10回	2	股の運動学②	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第11回	2	膝関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地		
第12回	2	膝の運動学①	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第13回	2	膝の運動学②	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第14回	2	足関節の連結	構成する組織を知り、連結を理解する。		菊地		
第15回	2	足関節の運動学	特徴を知り、運動を理解する。		菊地		
第16回	2	歩行①	正常の歩行のメカニズムを理解する。		平井		
第17回	2	歩行②	正常の歩行のメカニズムを理解する。		平井		
第18回	2	歩行③	歩行を観察し、分析・記載ができる。		平井		
第19回	2	歩行④	歩行を観察し、分析・記載ができる。		平井		
第20回	2	寝返り①	正常の寝返りのメカニズムを理解する。		平井		
第21回	2	寝返り②	寝返りを観察し、分析・記載ができる。		平井		
第22回	2	寝返り③	寝返りを観察し、分析・記載ができる。		平井		
第23回	2	起き上がり①	正常の起き上がりのメカニズムを理解する。		平井		
第24回	2	起き上がり②	起き上がりを観察し、分析・記載ができる。		平井		
第25回	2	起き上がり③	起き上がりを観察し、分析・記載ができる。		平井		
第26回	2	立ち上がり①	正常の立ち上がりのメカニズムを理解する。		平井		
第27回	2	立ち上がり②	正常の立ち上がりのメカニズムを理解する。		平井		
第28回	2	立ち上がり③	立ち上がりを観察し、分析・記載ができる。		平井		
第29回	2	立ち上がり④	立ち上がりを観察し、分析・記載ができる。		平井		
第30回	2	総括	まとめ		平井		
評価方法		グループワーク、成果物、小テスト、および授業態度を総合的に評価する。					
科目全体の評価方		授業時数を30時間で分割し、合算して判断する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	責任者	山野井 裕子	
8	× : 非該当	医療基礎統合論	開講時期	1年後期			
			授業時間	60			
授業形態		対面	☒ 実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 1年次に各種人体構造学で学んだ解剖学、生理学の基礎的な知識と、各種障害学の知識とを統合し、疾患に対する総合的な理解を図る。理学療法士として10年以上、病院や介護施設等で勤務した専任教員が経験を活かした授業を行う。					教科書(著者/書名/発行所)		
					1年次に使用した教科書		
					キーワード ①解剖学 ②生理学 ③病理学 ④基礎運動学 ⑤理学療法評価学 ⑥運動療法学 ⑦基礎運動学 ⑧臨床運動学 ⑨ICF		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	生理学実習	運動とバイタルサイン		山野井		
第2回	2	生理学実習	運動とバイタルサイン		山野井		
第3回	2	生理学実習	反射と体温		高澤		
第4回	2	生理学実習	反射と体温		高澤		
第5回	2	生理学実習	特殊感覚と運動		臂		
第6回	2	生理学実習	特殊感覚と運動		臂		
第7回	2	運動学実習	下肢骨格筋の触診		小川		
第8回	2	運動学実習	下肢骨格筋の触診		小川		
第9回	2	運動学実習	上肢骨格筋の触診		小池		
第10回	2	運動学実習	上肢骨格筋の触診		小池		
第11回	2	運動学実習	軟部組織の触診		菊地		
第12回	2	運動学実習	軟部組織の触診		菊地		
第13回	2	運動器障害症例検討	人工骨頭置換術		小池		
第14回	2	運動器障害症例検討	人工骨頭置換術		小池		
第15回	2	運動器障害症例検討	人工骨頭置換術		小池		
第16回	2	神経障害症例検討	脳卒中急性期		高澤		
第17回	2	神経障害症例検討	脳卒中急性期		高澤		
第18回	2	神経障害症例検討	脳卒中急性期		高澤		
第19回	2	内部障害症例検討	COPD		山野井		
第20回	2	内部障害症例検討	COPD		山野井		
第21回	2	内部障害症例検討	COPD		山野井		
第22回	2	動作分析	異常な立ち上がり動作の観察および原因の分析		菊地		
第23回	2	動作分析	異常な立ち上がり動作の観察および原因の分析		菊地		
第24回	2	動作分析	異常な立ち上がり動作の観察および原因の分析		菊地		
第25回	2	動作分析	異常歩行の観察および原因の分析		臂		
第26回	2	動作分析	異常歩行の観察および原因の分析		臂		
第27回	2	動作分析	異常歩行の観察および原因の分析		臂		
第28回	2	患者の目標設定	情報をもとに患者のADL到達目標を考える		小川		
第29回	2	患者の目標設定	情報をもとに患者のADL到達目標を考える		小川		
第30回	2	患者の目標設定	情報をもとに患者のADL到達目標を考える		小川		
評価方法		科目ルーブリックにて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田 誠	
9	× : 非該当	人体構造機能学Ⅰ	開講時期	1年前期			
			授業時間	30			
授業形態		対面	☒ 実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として10年整形外科系病院で勤務した経験から理学療法を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで本講義では、人体についての概観を理解した後、主な感覚系等のメカニズムを学習する。					教科書(著者/書名/発行所)		
					標準理学療法学・作業療法学 解剖学、生理学 医学書院		
					キーワード		
教育目標該当項目					細胞、感覚器、末梢神経、自律神経		
②							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	人体概観	各系統の仕組み		持田		
第2回	2	人体概観	細胞・組織		持田		
第3回	2	人体概観	細胞・組織		持田		
第4回	2	人体概観	系統別概念		持田		
第5回	2	人体概観	系統別概念		持田		
第6回	2	感覚器	視覚		持田		
第7回	2	感覚器	視覚		持田		
第8回	2	感覚器	平衡機能および聴覚		持田		
第9回	2	感覚器	平衡機能および聴覚		持田		
第10回	2	感覚器	味覚・嗅覚		持田		
第11回	2	感覚器	皮膚 外皮系 感覚器		持田		
第12回	2	感覚器	感覚器まとめ		持田		
第13回	2	感覚器	感覚器まとめ		持田		
第14回	2	自律神経	メカニズム		持田		
第15回	2	自律神経	メカニズム		持田		
評価方法		評価指標にて⑥⑦成果物(講義資料、講義中に作成したノート)、⑨成果物(小テスト結果)を評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門基礎	担当者	小池 武則
10	× : 非該当	人体構造機能学Ⅱ	開講時期 1年前期		
			授業時間 30		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	講義
科目概要・目的 人体には内臓器・血管・神経・骨・骨格筋などから構成されているが、それぞれの位置を知るために基準となるのは骨である。本科目では理学療法士として整形外科病院にて18年勤務した経験から、理学療法士の視点で骨を捉えていく。また、理学療法士が対象とするのは運動であり、運動は関節で起こる。本科目では関節の名称および一般的な構造と機能についても学んでいく。				教科書(著者/書名/発行所) 奈良勲 監修「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版」医学書院	
				キーワード ①骨の名称 ②骨部位の名称 ③骨の性質と機能 ④関節の名称 ⑤関節の構造 ⑥関節の機能 ⑦骨格筋の機能	
教育目標該当項目 ②					
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	骨学各論	大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨の部位名称がいえる。		小池
第2回	2	骨学各論	寛骨・脛骨・腓骨・足根骨の部位名称がいえる。		小池
第3回	2	骨学各論	脊椎の部位名称がいえる。		小池
第4回	2	骨学各論	胸骨・肋骨・鎖骨の部位名称がいえる。		小池
第5回	2	骨学各論	下肢骨と体幹骨を振り返る。		小池
第6回	2	骨学各論	肩甲骨・上腕骨の部位名称がいえる。		小池
第7回	2	骨学各論	上腕骨・橈骨・尺骨の部位名称がいえる。		小池
第8回	2	骨学各論	橈骨・尺骨・手根骨の部位名称がいえる。		小池
第9回	2	骨学各論	頭蓋骨の部位名称がいえる。		小池
第10回	2	骨学各論	上肢骨と頭蓋骨を振り返る。		小池
第11回	2	骨学各論	一般的な骨の形態・構造・血管・神経について言える。		小池
第12回	2	骨学各論	一般的な骨の機能・発生・リモデリングについて言える。		小池
第13回	2	関節総論	一般的な関節の構造と機能が言える。		小池
第14回	2	筋学総論	一般的な骨格筋の構造・筋線維タイプについて言える。		小池
第15回	2	運動器総論	骨・関節・骨格筋の構造と機能について振り返る。		小池
評価方法		評価指標にて⑦講義中に作成したノート、⑨小テスト結果、⑪反復学習実施状況を評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門基礎	担当者	高澤 洋二
11	× : 非該当	人体構造機能学Ⅲ	開講時期 1年前期		
			授業時間 30		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士としての20年以上の経験と一般病院・回復期病院・整形外科や訪問リハビリ等での実務経験を活かした授業で、神経系の構造から、正常な神経の機能や役割について理解を図る。脳の各機関の役割や局在性を理解し、運動と神経生理学のつながりを理解する。				教科書(著者/書名/発行所)	
				解剖学 第6版、生理学 第6版(標準理学療法学・作業療法学、医学書院)	
				キーワード 神経構造、神経機能、中枢神経、末梢神経	
教育目標該当項目 ②					
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	神経の区分と構成	中枢・末梢神経や髄膜・脳室について		高澤
第2回	2	興奮の伝達・シナプス・接合部	伝達の仕組みと変化について		高澤
第3回	2	大脳の構造①	部位の名称と場所について		高澤
第4回	2	大脳の構造②	脳機能の局在性について		高澤
第5回	2	脳幹の構造①	脳幹・脳神経の機能と構造について		高澤
第6回	2	脳幹の構造②	視床・視床下部の機能と構造について		高澤
第7回	2	脳幹の構造③	大脳基底核の機能と構造について		高澤
第8回	2	脊髄の構造	脊髄の機能と構造について		高澤
第9回	2	末梢神経の構造	構成と脊髄神経について		高澤
第10回	2	伝導路①	上行性・下行性の伝導路について		高澤
第11回	2	伝導路②	下行性伝導路について ①		高澤
第12回	2	伝導路③	下行性伝導路について ②		高澤
第13回	2	伝導路③	上行性伝導路について ①		高澤
第14回	2	伝導路③	上行性伝導路について ②		高澤
第15回	2	総括	まとめ		高澤
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)、⑦成果物(講義中に作成したノート)、⑨成果物(小テスト結果)、⑪反復学習実施状況(学習ドリル等)を評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	山野井 裕子
12	× : 非該当	人体構造機能学Ⅳ	開講時期	1年後期		
			授業時間	30時間		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 2 単位	講義
科目概要・目的 人体構造(解剖)・人体機能(生理)の理解は、理学療法を行う上で必須である。この授業では、内部障害に関連する解剖学・生理学の知識を体系的に理解し、2年で学習する内部障害理学療法の知識に結びつけられるようにすることを目標とする。理学療法士として病院・介護保険施設で20年間勤務した経験に基づき講義を行う。					教科書(著者/書名/発行所) 解剖学 第6版、生理学 第6版(標準理学療法学・作業療法学、医学書院)	
教育目標該当項目 ②					キーワード 血液、心臓、血管、リンパ、気管、気管支、肺、代謝、体温、運動生理	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	循環器	心臓の構造と血液の流れ		山野井	
第2回	2	循環器	動脈、静脈		山野井	
第3回	2	循環器	心臓の刺激伝導系		山野井	
第4回	2	循環器	血液の拍出と血圧		山野井	
第5回	2	循環器	血圧の調節		山野井	
第6回	2	循環器	血液の組成		山野井	
第7回	2	循環器	血液の機能		山野井	
第8回	2	呼吸器	呼吸器の構造		山野井	
第9回	2	呼吸器	呼吸運動と呼吸筋		山野井	
第10回	2	呼吸器	呼吸気量と換気障害		山野井	
第11回	2	呼吸器	ガス交換		山野井	
第12回	2	呼吸器	呼吸調節		山野井	
第13回	2	呼吸器	酸塩基平衡		山野井	
第14回	2	代謝	栄養とエネルギー代謝		山野井	
第15回	2	運動生理	エネルギー供給系と運動に伴う全身の変化		山野井	
評価方法		⑥成果物(講義資料)、⑦成果物(講義中に作成したノート)、⑨小テスト結果、⑪学習ドリル等を評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田 誠	
13	× : 非該当	人体構造機能学Ⅴ	開講時期	1年後期			
			授業時間	30			
授業形態		対面	☒ 実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として10年、整形外科系病院で勤務した経験から理学療法を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで、本講義では消化器・泌尿器系統を理解するとともに代謝の理解に努める					教科書(著者/書名/発行所)		
					標準理学療法学・作業療法学 解剖学、生理学 医学書院		
					キーワード 消化器・ホルモン・栄養素・泌尿器・排尿・排便		
教育目標該当項目 ②							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	消化器	概略			持田	
第2回	2	消化器	口腔の機能と構造			持田	
第3回	2	消化器	食道、胃の構造と機能			持田	
第4回	2	消化器	小腸・大腸の構造と機能			持田	
第5回	2	消化器	小腸・大腸の構造と機能			持田	
第6回	2	消化器	吸収と排便			持田	
第7回	2	消化器	肝臓・膵臓の構造と機能			持田	
第8回	2	代謝	栄養素と吸収部位			持田	
第9回	2	代謝	解糖系			持田	
第10回	2	代謝	ホルモン作用			持田	
第11回	2	代謝	ホルモンおよびビタミン代謝			持田	
第12回	2	泌尿器	腎臓			持田	
第13回	2	泌尿器	排尿			持田	
第14回	2	泌尿器	排尿			持田	
第15回	2	生殖器	特徴			持田	
評価方法		評価指標にて⑥⑦成果物(講義中に作成したノート、講義資料)、⑨成果物(小テスト結果)を評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門基礎			
14	× : 非該当	人体構造機能学演習	開講時期	1年	担当者	小池 武則
			授業時間	60		
授業形態	対面	☒ 実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的				教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として整形外科病院にて18年間の実務経験を活かした授業で、まずは講義形式にて四肢体幹の骨格筋の位置を学ぶ。その後、実技形式にて実際の人体においてどこにあるのかを触診していくことで、骨格筋の構造に対する実用的な理解度をあげる。				奈良勲 監修「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版」 監修 青木隆明 著者 林典雄「機能解剖学的触診技術 上肢」「機能解剖学的触診技術 下肢」改訂第2版		
				キーワード ①四肢体幹の骨触診 ②四肢体幹の筋触診		
教育目標該当項目 ①②⑥						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	下肢の筋	股関節屈筋群と伸筋群の走行を知る。		小池	
第2回	2	下肢の筋	股関節外転筋群と内転筋群の走行を知る。		小池	
第3回	2	下肢の筋	股関節外旋筋群と膝関節伸展筋群の走行を知る。		小池	
第4回	2	下肢の筋	膝関節屈曲筋群の走行を知る。		小池	
第5回	2	下肢の筋	足関節底屈筋群と背屈筋群の走行を知る。		小池	
第6回	2	振り返り	下肢の筋をより深く振り返る。		小池	
第7回	2	上肢の筋	肩甲骨と体幹を結ぶ筋群の走行を知る。		小池	
第8回	2	上肢の筋	肩関節深層筋群と表層筋群の走行を知る。		小池	
第9回	2	上肢の筋	肩関節表層筋群と上腕筋群の走行を知る。		小池	
第10回	2	上肢の筋	前腕前面筋群の走行を知る。		小池	
第11回	2	上肢の筋	前腕後面筋群の走行を知る。		小池	
第12回	2	振り返り	上肢の筋をより深く振り返る。		小池	
第13回	2	上肢の筋	前腕後面筋群の走行を知る。		小池	
第14回	2	上肢の筋	手掌部の筋群の走行を知る。		小池	
第15回	2	体幹の筋	腹部・腰部の筋群の走行を知る。		小池	
第16回	2	体幹の筋	頸部の走行を知る。		小池	
第17回	2	振り返り	上肢の筋・体幹の筋をより深く振り返る。		小池	
第18回	2	下肢の骨触診	寛骨・大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨の触診を行う。		小池	
第19回	2	体幹・上肢の骨触診	腰椎・頸椎・頭蓋骨・肩甲骨の触診を行う。		小池	
第20回	2	上肢の骨触診	上腕骨・橈骨・尺骨の触診を行う。		小池	
第21回	2	手・足の骨触診	足根骨・手根骨の触診を行う。		小池	
第22回	2	下肢の筋触診	腸腰筋・大殿筋・大腿筋膜張筋・中殿筋・薄筋の触診を行う。		小池	
第23回	2	下肢の筋触診	大腿四頭筋・ハムストリングス・縫工筋の触診を行う。		小池	
第24回	2	下肢の筋触診	足関節背屈筋群・下腿三頭筋・後脛骨筋の触診を行う。		小池	
第25回	2	上肢の筋触診	僧帽筋・肩甲挙筋・菱形筋・小胸筋の触診を行う。		小池	
第26回	2	上肢の筋触診	三角筋・大胸筋・大円筋・広背筋の触診を行う。		小池	
第27回	2	上肢の筋触診	肩関節深層筋群・肘関節周囲筋群の触診を行う。		小池	
第28回	2	上肢の筋触診	前腕筋群の触診を行う。		小池	
第29回	2	体幹の触診	頸部・胸腰部の筋群の触診を行う。		小池	
第30回	2	振り返り	講義と実技の振り返りを行う。		小池	
評価方法		科目ルーブリックにて評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田 誠	
15	× : 非該当	基礎病態論	開講時期	1年後期			
			授業時間	30			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 本授業では病態、すなわち病気になったとき身体の正常な構造(解剖)・機能(生理学)がどのような状態になっているのかを学習する。病態の理解は、理学療法を実施する上で重要ある。理学療法士として病院・介護保険施設で20年間勤務した経験に基づき講義を行う。					教科書(著者/書名/発行所)		
					カラーで学べる病理学 第5版(ヌーヴェルヒロカワ)		
					キーワード		
教育目標該当項目 ②					疾病の分類、炎症、免疫、アレルギー、進行性・退行性病変、腫瘍、奇形・遺伝病、感染症、循環障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	疾病の成り立ち	疾病の原因と発生について理解する。		持田		
第2回	2	細胞・組織の障害	各論として、細胞や組織の障害を理解する。		持田		
第3回	2	再生と修復	傷害とその後の組織の示す変化を理解する。		持田		
第4回	2	循環障害	疾患の成因となる病態を理解する。		持田		
第5回	2	循環障害	動脈硬化の成因と病態を理解する。		持田		
第6回	2	炎症	血管・結合組織を場として起こる炎症の概念を理解する。		持田		
第7回	2	炎症			持田		
第8回	2	免疫とアレルギー	血球の役割とアレルギーを理解する。		持田		
第9回	2	免疫とアレルギー			持田		
第10回	2	代謝異常	消化器系と代謝の関係性について理解する。		持田		
第11回	2	代謝異常	生活習慣病(メタボリックシンドロームなど)の成因を理解する。		持田		
第12回	2	腫瘍	悪性腫瘍の発生・進展、疫学的特徴を理解する。		持田		
第13回	2	腫瘍			持田		
第14回	2	感染	感染の発生と予防、代表的特徴を理解する。		持田		
第15回	2	先天異常	先天性疾患の分類・成因を理解する。		持田		
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)、⑨成果物(小テスト結果)を評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田 太郎	
16	× : 非該当	臨床病態論	開講時期	1年後期			
			授業時間	30			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 基礎医学領域と臨床医学領域の間に位置し、基礎病態論を踏まえて、様々な症候に対して行われる画像検査、生化学検査、生理検査などの諸検査の所見、治療に用いられる薬剤の薬理効果について学び、リハビリテーション医学領域を俯瞰する					教科書(著者/書名/発行所)		
					内山 靖/リハベーシック 生化学・栄養学 医歯薬出版社		
					内山 靖/リハベーシック 薬理学・臨床薬理学/医歯薬出版社 水間正澄/リハビリテーション医療に活かす画像のみかた/南江堂		
教育目標該当項目 ②					キーワード		
					診断・画像診断・栄養素・栄養と運動・薬剤の効果・副作用・薬剤と運動		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	画像診断学 総論	画像とリハビリテーション医療の繋がりを理解する。		外部講師		
第2回	2	画像診断学 総論	画像とリハビリテーション医療の繋がりを理解する。		外部講師		
第3回	2	単純X線・CT	単純X線・CTの原理と見方を理解する。		外部講師		
第4回	2	MRI・MRA	MRI・MRAの原理と見方を理解する。		外部講師		
第5回	2	核医学検査・エコー	核医学検査・エコーの原理と見方を理解する。		外部講師		
第6回	2	蛋白とアミノ酸	栄養学の基礎として蛋白とアミノ酸の機能を理解する。		外部講師		
第7回	2	酵素・ホルモン	栄養学の基礎として酵素とホルモンの機能を理解する。		外部講師		
第8回	2	糖質・脂質の代謝	栄養学の基礎として糖質と脂質の機能を理解する。		外部講師		
第9回	2	ビタミン	栄養学の基礎としてビタミンの機能を理解する。		外部講師		
第10回	2	エネルギー代謝	栄養学の基礎としてエネルギー代謝を理解する。		外部講師		
第11回	2	薬の基礎と炎症	臨床薬学の基礎として必要な知識と炎症の制御を理解する。		持田		
第12回	2	神経疾患の薬物療法	神経疾患に対する薬物療法を理解する。		持田		
第13回	2	循環系疾患の薬物療法	循環系疾患に対する薬物療法を理解する。		持田		
第14回	2	疼痛の薬物療法	疼痛に対する薬物療法を理解する。		持田		
第15回	2	注意すべき頻用される薬剤	薬物療法の注意点を理解する。		持田		
評価方法		小テスト、成果物、および授業態度を統合的に評価する。					
科目全体の評価方		授業時数を10時間で分割し、合算して判断する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	井古田 大介	
17	○:該当	臨床心理学	開講時期	1年後期			
			授業時間	30			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 臨床心理士・公認心理師として精神科・心療内科病院13年の実務経験を活かし、人間理解の方法を心理学的観点から解説する。理学療法士として多様な精神疾患を抱える患者と向きあうためのアプローチ方法を身につける。					教科書(著者/書名/発行所)		
					鈴木伸一(編)「対人援助と心のケアに活かす心理学」有斐閣ストウディア		
					キーワード 精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、抑うつ、不安		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	抑うつに対する臨床心理学的対応①	抑うつを抱える患者の心を理解する。		井古田		
第2回	2	抑うつに対する臨床心理学的対応②	抑うつを抱える患者に対するアプローチ法を理解する。		井古田		
第3回	2	不安に対する臨床心理学的対応①	不安を抱える患者の心を理解する。		井古田		
第4回	2	不安に対する臨床心理学的対応②	不安を抱える患者に対するアプローチ法を理解する。		井古田		
第5回	2	自殺に対する臨床心理学的対応①	自殺の予防的アプローチができるようになる。		井古田		
第6回	2	発達障害に対する臨床心理学的対応①	発達障害を抱える患者の心を理解する。		井古田		
第7回	2	発達障害に対する臨床心理学的対応②	発達障害を抱える患者に対するアプローチ法を理解する。		井古田		
第8回	2	心理療法の進め方	心理療法の流れを理解する。		井古田		
第9回	2	精神分析療法①	精神分析を理解する。		井古田		
第10回	2	精神分析療法②	防衛機制を理解する。		井古田		
第11回	2	来談者中心療法①	来談者中心療法を理解する。		井古田		
第12回	2	来談者中心療法②	受容・共感・自己一致について理解する。		井古田		
第13回	2	行動療法	行動療法を理解する。		井古田		
第14回	2	認知行動療法	認知行動療法を理解する。		井古田		
第15回	2	総括	まとめ		井古田		
評価方法		小テスト・総合テスト・授業態度を統合的に評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	井古田 大介	
18	○:該当	精神疾患論	開講時期	1年後期			
			授業時間	30			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法の実施にあたって、根幹となる精神障害者の心理および行動特性を理解しておくことが重要である。 精神障害をもたらす精神疾患の病状・成因や診断・治療について理解し、それらを基に理学療法士としての精神障害者への社会生活面での援助のあり方を習得する。 教育目標該当項目 ②③					教科書(著者/書名/発行所)		
					奈良勲他／心理・精神領域の理学療法 はじめの一步／医歯薬出版		
					キーワード		
					統合失調症、抑うつ、不安、発達症、摂食障害、認知症、依存症		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	精神医学の概念と精神医療福祉の歴史	精神医学の概念について説明できる。 精神医療福祉の歴史について説明できる。		井古田		
第2回	2	精神疾患の成因と分類	精神疾患の成因と分類について説明できる。		井古田		
第3回	2	精神疾患の診断と評価	精神疾患の診断について説明できる。		井古田		
第4回	2	主な精神症状・主な精神状態	主な精神症状と状態について説明できる。		井古田		
第5回	2	統合失調症の症状	統合失調症について説明できる。		井古田		
第6回	2	統合失調症への対応	統合失調症への対応について説明できる。		井古田		
第7回	2	うつ病の症状と対応	うつ病の症状と対応について説明できる。		井古田		
第8回	2	双極性障害の症状と対応	双極性障害の症状と対応について説明できる。		井古田		
第9回	2	不安症の症状と対応	パニック症と全般性不安症、恐怖症の症状と対応について説明できる。		井古田		
第10回	2	強迫症の症状と対応	強迫症の症状と対応について説明できる。		井古田		
第11回	2	PTSDの症状と対応	PTSDの症状と対応について説明できる。		井古田		
第12回	2	発達症の対応	ASDとADHD、LDの対応について説明できる。		井古田		
第13回	2	摂食障害の症状と対応	摂食障害の症状と対応について説明できる。		井古田		
第14回	2	依存症の症状と対応	依存症の症状と対応について説明できる。		井古田		
第15回	2	総括	まとめ		井古田		
評価方法		小テスト・総合テスト・授業態度を統合的に評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門基礎				
19	× : 非該当	整形障害論	開講時期	1年後期	担当者	小池 武則	
			授業時間	60			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院にて十五年勤務した経験から、臨床実習前に知るべき整形外科疾患について、病態・検査・治療法を関連付けて解説していく。					教科書(著者/書名/発行所)		
					病気がみえる 運動器・整形外科(メ ディックメディア)		
教育目標該当項目 ②③					キーワード		
					①疫学 ②病態 ③検査・評価 ④画像所見 ⑤医学的治療 ⑥リハビリテーション		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	整形外科総論	整形外科医の診察・検査・治療について		小池		
第2回	2	変形性関節症①	総論および変形性膝関節症		小池		
第3回	2	変形性関節症②	膝関節画像所見		小池		
第4回	2	変形性関節症③	股関節画像所見		小池		
第5回	2	股関節疾患①	大腿骨頸部骨折および画像所見		小池		
第6回	2	股関節疾患②	大腿骨頸部骨折および画像所見		小池		
第7回	2	足関節疾患	足関節捻挫・深部静脈血栓症・RICE		小池		
第8回	2	足関節疾患	RICE・アキレス腱断裂		小池		
第9回	2	肩関節疾患①	五十肩・腱板断裂		小池		
第10回	2	肩関節疾患②	肩関節脱臼・上腕骨骨折		小池		
第11回	2	代謝性疾患	骨粗鬆症・骨軟化症		小池		
第12回	2	骨系統疾患	骨形成不全症・大理石病		小池		
第13回	2	その他の全身性疾患	感染症・腫瘍・切断		小池		
第14回	2	肘関節疾患	上腕骨外側上顆炎・野球肘		小池		
第15回	2	手関節疾患	橈骨遠位端骨折・ばね指・de Quervain病		小池		
第16回	2	脊椎疾患	腰椎椎間板ヘルニア		小池		
第17回	2	脊椎疾患	頸椎椎間板ヘルニア		小池		
第18回	2	脊椎疾患	腰部脊柱管狭窄症		小池		
第19回	2	脊椎疾患	脊椎すべり症・脊椎分離症・頸椎症		小池		
第20回	2	脊椎疾患	腰椎圧迫骨折		小池		
第21回	2	関節リウマチ	疫学・病態・関節症状		小池		
第22回	2	関節リウマチ	評価・診断・治療		小池		
第23回	2	膝関節疾患	半月板損傷・靱帯損傷・Osgood Shlatter病		小池		
第24回	2	股関節疾患③	Perthes病・発育性股関節形成不全		小池		
第25回	2	骨折総論	分類・症状・合併症・医学的治療		小池		
第26回	2	脊髄損傷	原因・脊髄ショック・予後		小池		
第27回	2	脊髄損傷	機能的予後・合併症		小池		
第28回	2	末梢神経損傷	腕神経叢損傷・胸郭出口症候群		小池		
第29回	2	末梢神経損傷	正中神経・尺骨神経・橈骨神経の障害		小池		
第30回	2	末梢神経損傷	総腓骨神経・坐骨神経の障害		小池		
評価方法		評価指標にて⑧振り返りシート、 ⑨小テストを評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	山野井 裕子	
20	×：非該当	内部障害論	開講時期	1年後期			
			授業時間	60			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 内部障害とは身体内部の障害のことである。本授業では、理学療法を実施する際に必要となる内科疾患について学習する。理学療法士として病院・介護保険施設で20年間勤務した経験に基づき講義を行う。					教科書(著者/書名/発行所)		
					標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版		
					キーワード 循環器、呼吸器、消化器、血液、代謝、内分泌、泌尿器、免疫、感染症		
教育目標該当項目 ②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	総論	内科学総論			山野井	
第2回	2	〃	診断と治療の実際			山野井	
第3回	2	循環器	循環器の構造と機能			山野井	
第4回	2	〃	循環器総論			山野井	
第5回	2	〃	虚血性心疾患			山野井	
第6回	2	〃	先天性心疾患、その他の心疾患			山野井	
第7回	2	〃	心不全			山野井	
第8回	2	〃	末梢血管疾患			山野井	
第9回	2	〃	画像、検査			山野井	
第10回	2	呼吸器	呼吸器の構造と機能			山野井	
第11回	2	〃	呼吸機能検査			山野井	
第12回	2	〃	慢性閉塞性肺疾患、その他の閉塞性肺疾患			山野井	
第13回	2	〃	間質性肺炎、その他の拘束性肺疾患			山野井	
第14回	2	〃	感染性肺疾患、その他の肺疾患			山野井	
第15回	2	〃	呼吸不全			山野井	
第16回	2	〃	画像、検査			山野井	
第17回	2	消化器	消化器の構造と機能			山野井	
第18回	2	〃	消化器疾患各論 食道、胃			山野井	
第19回	2	〃	消化器疾患各論 小腸、大腸			山野井	
第20回	2	〃	消化器疾患各論 、検査法			山野井	
第21回	2	肝胆膵	肝胆膵の構造と機能			山野井	
第22回	2	〃	肝胆膵疾患各論 肝臓			山野井	
第23回	2	〃	肝胆膵疾患各論、胆嚢、膵臓			山野井	
第24回	2	〃	肝胆膵疾患各論、検査法			山野井	
第25回	2	代謝	代謝の基礎			山野井	
第26回	2	〃	糖尿病			山野井	
第27回	2	〃	その他の代謝性疾患			山野井	
第28回	2	泌尿器	泌尿器と構造と機能			山野井	
第29回	2	〃	慢性腎臓病、腎不全			山野井	
第30回	2	〃	その他の泌尿器疾患			山野井	
評価方法		⑥成果物(講義資料)、⑦成果物(講義中に作成したノート)、⑨小テスト結果、⑪学習ドリル等を評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門基礎	責任者	高澤 洋二
21	× : 非該当	神経障害論 (うち30時間)	開講時期 1年後期		
			授業時間 60		
授業形態 ハイフレックス		☑実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士としての20年以上の経験と一般病院・回復期病院・整形外科クリニックや訪問リハビリ等での実務経験を活かした授業で、各論として脳血管障害と神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について理解を図る。				教科書(著者/書名/発行所) 医療情報科学研究所／編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア	
				キーワード 脳血管障害・神経難病・画像評価(脳CT・MRI・脳波等)・薬物療法	
教育目標該当項目 ②③					
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	脳血管障害①	総論(血管などの脳循環や疫学)を理解する。		高澤
第2回	2	脳血管障害②	虚血性脳血管障害について理解する。		高澤
第3回	2	脳血管障害③	アテローム血栓性脳梗塞		高澤
第4回	2	脳血管障害④	心原性脳梗塞・ラクナ梗塞		高澤
第5回	2	脳血管障害⑤	出血性脳血管障害について理解する。		高澤
第6回	2	脳血管障害⑥	被殻出血・視床出血・脳幹出血		高澤
第7回	2	脳血管障害⑦	小脳出血・くも膜下出血		高澤
第8回	2	外傷性の神経障害	脳梗塞の脳画像より画像診断と病態を理解する		高澤
第9回	2	脳画像①	脳出血の脳画像より画像診断と病態を理解する		高澤
第10回	2	脳画像②	くも膜下出血の脳画像より画像診断と病態を理解する		高澤
第11回	2	脳画像③	正常な運動・感覚伝導路について		高澤
第12回	2	片麻痺患者の病態理解①	上位・下位運動ニューロン障害について①		高澤
第13回	2	片麻痺患者の病態理解②	上位・下位運動ニューロン障害について②		高澤
第14回	2	片麻痺患者の合併症①	運動麻痺・感覚麻痺について		高澤
第15回	2	片麻痺患者の合併症②	深部腱反射・筋緊張について		高澤
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)、⑦成果物(講義中に作成したノート)、⑨成果物(小テスト結果)、⑪反復学習実施状況(学習ドリル等)を評価する。			
科目全体の評価方法		この科目は別に示す神経障害論(担当:臂)との合算評価とする。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	臂 貴紀	
21	× : 非該当	神経障害論 (うち30時間)	開講時期	1年後期			
			授業時間	60			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーション・デイサービスにて15年間の実務経験を活かした授業で、各論として脳血管障害と神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について理解を図る。					教科書(著者/書名/発行所)		
					医療情報科学研究所／編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア		
					キーワード 脳血管障害・神経難病・画像評価(脳CT・MRI・脳波等)・薬物療法		
教育目標該当項目 ②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	パーキンソン病	大脳基底核の機能から病態生理を理解する。			臂	
第2回	2	〃	運動症状を理解する			臂	
第3回	2	〃	非運動症状について理解する。			臂	
第4回	2	〃	主症状や経過について理解する。 L-dopa抗コリン剤等薬剤の効果、副作用を理解する			臂	
第5回	2	多発性硬化症	疾患概要や病態生理、画像上の変化を理解する。			臂	
第6回	2	〃	症状について理解する。			臂	
第7回	2	ギランバレー症候群	脱髄性疾患の特徴、検査所見を理解する。			臂	
第8回	2	〃	多発性硬化症との違いを含めて症状を理解する。			臂	
第9回	2	〃	症状から生じる機能障害と能力障害 ステロイド等の薬物の効果、副作用を理解する。			臂	
第10回	2	脊髄小脳変性症	小脳の機能と協調運動障害			臂	
第11回	2	〃	病態生理・分類・画像上の変化 主症状について理解する。			臂	
第12回	2	〃	多系統萎縮症などの分類を理解する。			臂	
第13回	2	重症筋無力症	病理や症状、他の神経疾患で学んだ病理的背景から症状を理解できる。			臂	
第14回	2	その他の疾患	各疾患の病態生理や主症状について理解する。			臂	
第15回	2	総括	総復習と共に国家試験の問題の確認を行う。			臂	
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)⑨成果物(小テスト結果)⑪反復学習の実施(学習ドリル等)を評価する。評価指標の詳細については講義初回で提示する。					
科目全体の評価方法		この科目は別に示す神経障害論(担当:高澤)との合算評価とする。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門基礎	担当者	小松 昌久
22	○:該当	発達障害論	開講時期 1年後期		
			授業時間 15		
授業形態 ハイフレックス		☑実務経験のある教員による授業		単位数 1 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として35年間、一般病院等での小児領域に対するリハビリテーションの経験を活かした講義で種々の疾患の発症要因と病態を理解できる。また、頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し、それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに、障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。				教科書(著者/書名/発行所)	
				上杉雅之 監修『イラストでわかる小児理学療法学』医歯薬出版	
				キーワード	
教育目標該当項目 ②③				脳性麻痺、二分脊椎、染色体異常	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	NICU・重症心身障害児と理学療法		小松
第2回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	先天性奇形、Down症候群について		小松
第3回	2	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法について		小松
第4回	2	二分脊椎	二分脊椎の発生原因や疾患の特徴について		小松
第5回	2	脳性麻痺	脳性麻痺の概要について		小松
第6回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法について		小松
第7回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法について		小松
第8回	2	総括	まとめ		小松
評価方法		小テスト、総合テスト、成果物、授業態度を統合的に評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田 誠
23	× : 非該当	老年学	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
授業形態		ハイフレックス			☑実務経験のある教員による授業	
科目概要・目的 理学療法士として10年、整形外科系病院で勤務した経験から理学療法を行なうためには、加齢に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。加齢とともに変化する身体機能、精神機能を整理し、疾患像をイメージできることを期待する。					単位数	2 単位
					演習	
					教科書(著者/書名/発行所)	
					高齢者理学療法学テキスト 南江堂	
教育目標該当項目 ①②③					キーワード	
					加齢による変化、老年症候群、サルコペニア、フレイル、骨粗鬆症、認知症、末梢神経障害、老齢疾患	
回数	時間	テーマ			担当教員	
第1回	2	加齢による生理機能変化①	老化現象のうち、生理的機能		持田	
第2回	2	加齢による生理機能変化②	老化現象のうち、生理的機能		持田	
第3回	2	加齢による運動機能変化①	老化現象のうち、運動機能		持田	
第4回	2	加齢による運動機能変化②	老化現象のうち、運動機能		持田	
第5回	2	加齢による精神機能変化①	老化現象のうち、精神機能		持田	
第6回	2	加齢による精神機能変化②	老化現象のうち、精神機能		持田	
第7回	2	老年期に特有の疾患・障害	老年症候群		持田	
第8回	2	老年期に特有の疾患・障害	フレイル		持田	
第9回	2	老年期に特有の疾患・障害	サルコペニア		持田	
第10回	2	老年期に特有の疾患・障害	認知症		持田	
第11回	2	老年期に特有の疾患・障害	脊椎疾患		持田	
第12回	2	老年期に特有の疾患・障害	骨粗しょう症		持田	
第13回	2	老年期に特有の疾患・障害	末梢神経障害		持田	
第14回	2	老年期に特有の疾患・障害	誤嚥性肺炎		持田	
第15回	2	老年期に特有の疾患・障害	褥瘡		持田	
評価方法		評価指標にて⑥(講義資料)、⑨成果物(小テスト結果)を評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎			
24	×：非該当	リハビリテーション概論Ⅰ	開講時期	1年前期	担当者	小川 紀子	
			授業時間	30			
授業形態		対面	☒ 実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 保健・医療・福祉の専門職である理学療法士として業務を実施するために必要な、リハビリテーションの理念、社会保障制度について理解する。また、理学療法を受ける患者や利用者の様々なニーズに対して対応できるように、保健・医療・福祉の各領域についての法制度の動向やサービスの内容を理解する。理学療法士として病院及び老人保健施設に勤務した経験をもとにした授業である。					教科書(著者/書名/発行所)		
					鶴見隆正 編「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」 医学書院 佐伯 寛 他編「リハビリテーション概論」医歯薬出版		
					キーワード リハビリテーションの理念、社会保障制度(医療・福祉制度、法規、関連制度)		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	リハビリテーションの理念	リハビリテーションの語源・定義・種類・目的を理解する。			小川	
第2回	2	障害と心理	障害を持つ患者の心理を理解する。			小川	
第3回	2	障害分類	障害分類であるICIDH・ICFについて理解する。			小川	
第4回	2	ICIDH・ICFの実践	ICIDH・ICFを実践することで理解を深める。			小川	
第5回	2	ノーマライゼーションとは	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザインについて理解する。			小川	
第6回	2	社会保障制度	社会保障制度の定義・分類・優先順位・種類について理解する。			小川	
第7回	2	医療保険	医療保険制度について理解する。			小川	
第8回	2	年金保険	公的年金制度について理解する。			小川	
第9回	2	介護保険	介護保険について理解する。			小川	
第10回	2	難病とは	国の難病対策について理解する。			小川	
第11回	2	社会福祉の分野とサービス	社会福祉六法について理解する。			小川	
第12回	2	障害者手帳とは	各種法律・手帳について理解する。			小川	
第13回	2	生活保護法	生活保護法について理解する。			小川	
第14回	2	老人福祉法 他	老人福祉法・高齢者の医療の確保に関する法律・健康増進法について理解する。			小川	
第15回	2	国家試験対策	国家試験過去問題演習と解説			小川	
評価方法		講義中に作成したノートの提出状況及び筆記試験の結果で評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	小川 紀子	
25	× : 非該当	多職種連携論	開講時期	1年後期			
			授業時間	30			
授業形態		対面	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 患者・家族にとって最適の医療を効率的に提供するためには、職種間協働にもとづく「チーム医療」の推進が必要である。講義では、医療の枠にとらわれず、これから健康・医療・福祉の専門職を目指すものとして、対象者を中心としたチーム医療の意義、多職種間のコミュニケーションの知識・技術およびその重要性を学ぶ。理学療法士として一般病院、介護老人保健施設の実務経験を活かした授業である。 教育目標該当項目 ④⑤⑥					教科書(著者/書名/発行所)		
					佐伯 寛 他編「リハビリテーション概論」医歯薬出版		
					キーワード		
					多職種連携・チーム医療の中での専門職種とその役割・職業倫理・リスクマネジメント・クリニカルパス		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	多職種連携の場所とは	リハビリテーション医療・職業リハビリテーション・地域リハビリテーションについて理解する。			小川	
第2回	2	リハビリテーションの流れ	リハビリテーション・理学療法の流れについて理解する。			小川	
第3回	2	社会資源について	社会資源について理解する。			小川	
第4回	2	患者中心の医療	患者中心の医療について理解する。			小川	
第5回	2	多職種連携	チームアプローチ・チーム医療について理解する。			小川	
第6回	2	医療・福祉の専門職種	医療・福祉の専門職種について理解する。			小川	
第7回	2	職業倫理	専門職に求められる職業倫理について理解する。			小川	
第8回	2	身分法	理学療法士及び作業療法士法について理解する。			小川	
第9回	2	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントについて理解する。			小川	
第10回	2	守秘義務	守秘義務・個人情報保護法について理解する。			小川	
第11回	2	リスクマネジメント	リスクマネジメントについて理解する。			小川	
第12回	2	感染予防	感染予防について理解する。			小川	
第13回	2	クリニカルパス・EBM	クリニカルパス・EBMについて理解する。			小川	
第14回	2	施設基準と診療報酬	理学療法に関連する施設基準と報酬について理解する。			小川	
第15回	2	事例検討	ロールプレイング(事例に対して多職種連携の実際を学ぶ)			小川	
評価方法		評価指標③グループワーク発表、⑦講義中に作成したノートの提出状況で評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	小川 紀子
26	× : 非該当	生活環境論	開講時期	1年後期		
			授業時間	30		
授業形態		ハイフレックス			☑実務経験のある教員による授業	
単位数					1 単位	演習
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)	
生活環境は、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在するものである。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、そのための基本的な理念と知識について学習する。理学療法士として一般病院、介護老人保健施設の実務経験を活かした授業である。					鶴見隆正 編「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」医学書院	
教育目標該当項目					キーワード	
③④⑤					家族・家庭・住環境・地域環境・職場環境・環境の構造・環境と固体	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	生活環境学の概念	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・アクセシビリティについて理解する。		小川	
第2回	2					
第3回	2	生活環境を構成する要素	生活環境を構成する要素について理解する。		小川	
第4回	2	物理的環境	物理的環境について理解する。		小川	
第5回	2	車椅子	車椅子の分類・種類・指導方法について理解する。		小川	
第6回	2	歩行補助具	歩行補助具の種類・機能・適応について理解する。		小川	
第7回	2	自助具・補装具	自助具・補装具の種類・適応について理解する。		小川	
第8回	2	経済的環境	経済的環境について理解する。		小川	
第9回	2	制度的環境	制度的環境について理解する。		小川	
第10回	2	人的環境	人的環境について理解する。		小川	
第11回	2	住宅・住宅改修	生活環境としての住宅・住宅改修		小川	
第12回	2	住宅改修の実践	建築知識の基本と図面化		小川	
第13回	2	住環境整備の基本的配慮	住宅部位への配慮		小川	
第14回	2		各部屋への配慮		小川	
第15回	2	地域環境と公共交通	地域環境と公共交通について理解する。		小川	
評価方法		講義中に作成したノートの提出状況及び筆記試験の結果で評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	菊地 潤
27	× : 非該当	運動療法総論	開講時期	1年後期		
			授業時間	30		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 1 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院、診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、新人理学療法士として勤務する上で必要と思われる運動療法の基礎的な原理と方法を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所)	
					吉尾 雅春・他 編「運動療法学 総論」医学書院	
					キーワード 運動と栄養、関節可動域運動、ストレッチング、筋力増強運動、テーピング	
教育目標該当項目 ②③						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	運動と栄養	栄養と運動を併用する効果を知る。		菊地	
第2回	2	関節可動域運動(1)	関節可動域運動の目的を知る。		菊地	
第3回	2	関節可動域運動(2)	関節可動域運動の方法を知る。		菊地	
第4回	2	関節可動域運動(3)	上肢の関節可動域運動の方法を知り実践する。		菊地	
第5回	2	関節可動域運動(4)	下肢の関節可動域運動の方法を知り実践する。		菊地	
第6回	2	関節可動域運動(5)	頸部・体幹の関節可動域運動の方法を知り実践する。		菊地	
第7回	2	運動と栄養	運動と栄養による骨格筋量の増加を知る。		菊地	
第8回	2	筋力増強運動(1)	筋力増強運動の目的を知る。		菊地	
第9回	2	筋力増強運動(2)	筋力増強運動の方法を知る。		菊地	
第10回	2	筋力増強運動(3)	上肢の筋力増強運動の方法を知り実践する。		菊地	
第11回	2	筋力増強運動(4)	下肢の筋力増強運動の方法を知り実践する。		菊地	
第12回	2	筋力増強運動(5)	頸部・体幹の筋力増強運動の方法を知り実践する。		菊地	
第13回	2	テーピング(1)	テーピングの目的・方法を知る。		菊地	
第14回	2	テーピング(2)	上肢のテーピングの方法を知り、実践する。		菊地	
第15回	2	テーピング(3)	下肢のテーピングの方法を知り、実践する。		菊地	
評価方法		科目ルーブリックにて評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	臂 貴紀
28	× : 非該当	臨床運動学	開講時期	2年前期		
			授業時間	60		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーション・デイサービスにて15年間の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションの臨床現場では力学的に物事を考え、臨床意思決定を行う機会が多くあります。例えば動作の介助や誘導のキーポイントを考えたり、異常動作の原因を推論することが重要となります。そのため、臨床的に用いられる観察を中心とした運動分析、動作分析を講義を通して学習する。					教科書(著者/書名/発行所)	
					石井慎一郎 編著「動作分析臨床活用講座」メディカルビュー社	
					キーワード	
教育目標該当項目 ②					立位・坐位・起居移動動作・筋電図・動画での観察・分析	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	立位姿勢	矢状面からの観察点を理解する。		臂	
第2回	2	立位姿勢の観察・分析	観察し姿勢の原因を解剖運動学側面にて理解できる。		臂	
第3回	2	坐位の姿勢	正常の坐位姿勢の特徴を理解する。		臂	
第4回	2	坐位の観察・分析	観察し姿勢の原因を解剖運動学側面にて理解できる。		臂	
第5回	2	寝返り	寝返り動作の仕組み、観察のポイントを理解する。		臂	
第6回	2	寝返り観察・分析	所定のシートに寝返りの観察を記載する。		臂	
第7回	2	寝返りでの逸脱動作・原因	逸脱の代表的なパターンを理解する。		臂	
第8回	2	起き上がり	起き上がりの仕組み、観察のポイントを理解する。		臂	
第9回	2	起き上がり逸脱動作・原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第10回	2	立ち上がり	正常の立ち上がり動作について理解する。		臂	
第11回	2	立ち上がりでの逸脱動作・原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第12回	2	歩行の観察	所定のシートに歩行の観察を記載する。		臂	
第13回	2	歩行での逸脱動作	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第14回	2	歩行での逸脱の原因	逸脱動作の原因について理解する。		臂	
第15回	2	症例動作分析	動画にて逸脱動作の観察・分析表現ができる。		臂	
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)⑨成果物(小テスト結果)を評価する。評価指標の詳細については講義初回で提示する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	小川紀子
29	○:該当	理学療法管理学	開講時期	3年前期		
			授業時間	30		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士は、院外、施設外に視野を広げ地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多くなるため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化していかなければならない。リハビリテーション管理職経験を持つ教員と臨床で働く現職管理職理学療法士を外部講師に招き、組織の能力を最大限に発揮させるための具体的な管理・教育について系統的に学び、リハビリテーション部門の管理について理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所)	
					橋元 隆 編「理学療法管理学」医歯薬出版	
					キーワード	
教育目標該当項目 ②③					リハビリテーション及び理学療法部門の管理運営・安全管理(インシデント、感染対策等)・情報管理(診療録記録、個人情報保護等)	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	管理・マネジメントの概観	理学療法士と管理・マネジメント			小川
第2回	2	職業倫理	コンプライアンス・プロフェッショナリズム・ハラスメント			小川
第3回	2	理学療法管理と教育学	教育とは・教育評価・障がい児教育			小川
第4回	2	組織とマネジメント①	組織とは・組織マネジメント			外部講師
第5回	2	組織とマネジメント②	理学療法士組織・病院組織・理学療法部門			外部講師
第6回	2	職場管理①	情報のマネジメント・多職種連携のマネジメント			外部講師
第7回	2	職場管理②	労働衛生のマネジメント・セルフマネジメント			外部講師
第8回	2	理学療法業務のマネジメント①	医療におけるリスクマネジメント・理学療法におけるリスクマネジメント			外部講師
第9回	2	理学療法業務のマネジメント②	感染対策とマネジメント・機器設備のマネジメント			外部講師
第10回	2	教育・キャリアのマネジメント①	理学療法士教育の歴史・キャリア支援			外部講師
第11回	2	教育・キャリアのマネジメント②	生涯学習・キャリアアップの実践			外部講師
第12回	2	地域活動のマネジメント①	地域包括ケア・地域リハビリテーション			外部講師
第13回	2	地域活動のマネジメント②	地域における多職種連携・地域活動の実践			外部講師
第14回	2	理学療法に関連する法律と制度①	医療を支える法律・制度の基礎知識			小川
第15回	2	理学療法に関連する法律と制度②	医療保険制度・介護保険制度・その他制度			小川
評価方法		講義中に作成したノートの提出状況及び筆記試験の結果で評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	菊地 潤	
30	× : 非該当	理学療法評価学	開講時期	1年後期			
			授業時間	60			
授業形態		対面	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として整形外科病院、診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、理学療法の一連の流れにおける評価の位置づけを説明し、評価の意義・目的について理解する。評価方法の種類や主な検査測定項目を学ぶ。本講義では関節可動域測定、Danielsらの徒手筋力検査、四肢長・周径を中心に実施し、その検査の目的や結果の解釈について理解する。					石川 朗 編著「15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学・実習」 中山書店		
					Dale Avers・他 著「新・徒手筋力検査法 原著第10版」協同医書出版社		
					キーワード		
					①バイタルサイン ②四肢長・周径 ③関節可動域 ④筋力		
教育目標該当項目							
①②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法評価の位置づけ	評価の一連の流れや目的について		菊地		
第2回	2	情報収集	患者情報等の情報収集について		菊地		
第3回	2	バイタルサイン	覚醒状態や脈、血圧について		菊地		
第4回	2	形態測定①	四肢長の概要について		菊地		
第5回	2	形態測定②	検査の実施、記録		菊地		
第6回	2	形態測定③	周径の概要について		菊地		
第7回	2	形態測定④	検査の実施、記録		菊地		
第8回	2	関節可動域測定①	関節可動域測定の定義について		菊地		
第9回	2	関節可動域測定②	肩関節の測定法		菊地		
第10回	2	関節可動域測定③	肘関節・前腕の測定法		菊地		
第11回	2	関節可動域測定④	手関節・手指の測定法		菊地		
第12回	2	関節可動域測定⑤	股関節の測定法		菊地		
第13回	2	関節可動域測定⑥	膝関節・足関節・足部の測定法		菊地		
第14回	2	関節可動域測定⑦	頸部・胸腰部の測定法		菊地		
第15回	2	関節可動域測定⑧	肩甲帯の測定法		菊地		
第16回	2	徒手筋力検査①	徒手筋力検査の定義について		菊地		
第17回	2	徒手筋力検査②	股関節の筋力検査①		菊地		
第18回	2	徒手筋力検査③	股関節の筋力検査②		菊地		
第19回	2	徒手筋力検査④	膝関節の筋力検査①		菊地		
第20回	2	徒手筋力検査⑤	足関節・足部の筋力検査①		菊地		
第21回	2	徒手筋力検査⑥	肩甲骨周囲筋の筋力検査①		菊地		
第22回	2	徒手筋力検査⑦	肩甲骨周囲筋の筋力検査②		菊地		
第23回	2	徒手筋力検査⑧	肩関節の筋力検査①		菊地		
第24回	2	徒手筋力検査⑨	肩関節の筋力検査②		菊地		
第25回	2	徒手筋力検査⑩	肘関節・前腕の筋力検査①		菊地		
第26回	2	徒手筋力検査⑪	手関節の筋力検査①		菊地		
第27回	2	徒手筋力検査⑫	体幹の筋力検査①		菊地		
第28回	2	徒手筋力検査⑬	体幹の筋力検査②		菊地		
第29回	2	徒手筋力検査⑭	頸部の筋力検査		菊地		
第30回	2	総括	まとめ		菊地		
評価方法		科目ルーブリックにて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	責任者	臂 貴紀
31	× : 非該当	理学療法評価学演習	開講時期 2年前期		
			授業時間 120		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業		単位数 4 単位	演習
科目概要・目的 整形障害・神経障害・内部障害の臨床を10年以上経験している講師による授業で、理学療法士が行う評価方法を学び、実技演習、それらの記録を学ぶ。また臨床実習の前段階として模擬症例などを通して理学療法の一連の流れを学習する。				教科書(著者/書名/発行所)	
				松澤 正 著「理学療法評価学」 金原出版株式会社	
				キーワード 身体測定、関節可動域、筋力	
教育目標該当項目 ①②⑥					
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	理学療法評価	実習について		専任
第2回	2	理学療法評価	実習中の課題物・作成物について		専任
第3回	2	理学療法評価	関節可動域測定1		専任
第4回	2	理学療法評価	関節可動域測定2		専任
第5回	2	理学療法評価	関節可動域測定3		専任
第6回	2	理学療法評価	筋力評価1		専任
第7回	2	理学療法評価	筋力評価2		専任
第8回	2	理学療法評価	筋力評価3		専任
第9回	2	理学療法評価	バイタル測定1		専任
第10回	2	理学療法評価	バイタル測定2		専任
第11回	2	理学療法評価	形態測定1		専任
第12回	2	理学療法評価	形態測定2		専任
第13回	2	理学療法評価	腱反射・病的反射1		専任
第14回	2	理学療法評価	腱反射・病的反射2		専任
第15回	2	理学療法評価	筋緊張・BRS・感覚検査について1		専任
第16回	2	理学療法評価	筋緊張・BRS・感覚検査について2		専任
第17回	2	理学療法評価	バランス評価1		専任
第18回	2	理学療法評価	バランス評価2		専任
第19回	2	理学療法評価	協調性1		専任
第20回	2	理学療法評価	協調性2		専任
第21回	2	理学療法評価	脳神経1		専任
第22回	2	理学療法評価	脳神経2		専任
第23回	2	理学療法評価	ADL評価1		専任
第24回	2	理学療法評価	ADL評価2		専任
第25回	2	理学療法評価	触診1		専任
第26回	2	理学療法評価	触診2		専任
第27回	2	理学療法評価	疼痛検査1		専任
第28回	2	理学療法評価	疼痛検査2		専任
第29回	2	理学療法評価	問診1		専任
第30回	2	理学療法評価	問診2		専任

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	臂 貴紀
31	× : 非該当	理学療法評価学演習	開講時期	2年前期		
			授業時間	120		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 4 単位	演習
科目概要・目的 整形障害・神経障害・内部障害の臨床を10年以上経験している講師による 授業で、理学療法士が行う評価方法を学び、実技演習、それらの記録を学ぶ。また臨床実習の前段階として模擬症例などを通して理学療法の一連の流れを学習する。					教科書(著者/書名/発行所)	
					松澤 正 著「理学療法評価学」 金原出版株式会社	
					キーワード 身体測定、関節可動域、筋力	
教育目標該当項目 ①②⑥						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第31回	2	理学療法評価	認知機能検査1		専任	
第32回	2	理学療法評価	認知機能検査2		専任	
第33回	2	理学療法評価	整形試験1		専任	
第34回	2	理学療法評価	整形試験2		専任	
第35回	2	理学療法評価	脳血管障害の評価プランについて1		専任	
第36回	2	理学療法評価	脳血管障害の評価プランについて2		専任	
第37回	2	理学療法評価	脳血管障害の評価プランについて3		専任	
第38回	2	理学療法評価	整形疾患の評価プランについて1		専任	
第39回	2	理学療法評価	整形疾患の評価プランについて2		専任	
第40回	2	理学療法評価	整形疾患の評価プランについて3		専任	
第41回	2	理学療法評価	模擬症例の提示		専任	
第42回	2	理学療法評価	模擬症例に対する評価		専任	
第43回	2	理学療法評価	起居移動動作について1		専任	
第44回	2	理学療法評価	起居移動動作について2		専任	
第45回	2	理学療法評価	起居移動動作について3		専任	
第46回	2	理学療法評価	起居移動動作について4		専任	
第47回	2	理学療法評価	理学療法実施時の記載について1		専任	
第48回	2	理学療法評価	理学療法実施時の記載について2		専任	
第49回	2	理学療法評価	理学療法実施時の記載について3		専任	
第50回	2	理学療法評価	問題点抽出目標設定について1		専任	
第51回	2	理学療法評価	問題点抽出目標設定について2		専任	
第52回	2	理学療法評価	問題点抽出目標設定について3		専任	
第53回	2	理学療法評価	模擬症例の提示2		専任	
第54回	2	理学療法評価	樹形図の考え方1		専任	
第55回	2	理学療法評価	樹形図の考え方2		専任	
第56回	2	理学療法評価	目標・治療プログラム立案について1		専任	
第57回	2	理学療法評価	目標・治療プログラム立案について2		専任	
第58回	2	理学療法評価	目標・治療プログラム立案について3		専任	
第59回	2	理学療法評価	目標・治療プログラム立案について4		専任	
第60回	2	理学療法評価	目標・治療プログラム立案について5		専任	
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)⑨成果物(小テスト結果)を評価する。評価指標の詳細については講義初回で提示する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	臂 貴紀	
32	× : 非該当	理学療法評価技術論	開講時期	2年後期			
			授業時間	120			
授業形態		対面	☑実務経験のある教員による授業		単位数	4 単位	演習
科目概要・目的 整形障害・神経障害・内部障害の臨床を10年以上経験している講師による授業で、理学療法士が臨床上対応することの多い代表的な疾患について他の講義での断片的に学んだ基礎や臨床的分野について統合を図る。知識の形成とともに臨床的思考・国家試験への対応力を向上させる。					教科書(著者/書名/発行所)		
					指定しない		
					キーワード		
					①設定症例への検査法 ②機能障害の解釈 ③医学的所見 ④情報収集 ⑤問題点抽出 ⑥目標設定		
教育目標該当項目							
①②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	基礎・臨床・理学療法分野	基礎分野を踏まえて変形性関節症の臨床分野を診る		専任		
第2回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第3回	2	基礎・臨床・理学療法分野	臨床分野を踏まえて変形性関節症の理学療法を診る		専任		
第4回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第5回	2	基礎・臨床・理学療法分野	基礎分野を踏まえて大腿骨頸部骨折の臨床分野を診る		専任		
第6回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第7回	2	基礎・臨床・理学療法分野	臨床分野を踏まえて大腿骨頸部骨折の理学療法を診る		専任		
第8回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第9回	2	基礎・臨床・理学療法分野	基礎分野を踏まえて虚血性心疾患の臨床分野を診る		専任		
第10回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第11回	2	基礎・臨床・理学療法分野	臨床分野を踏まえて虚血性心疾患の理学療法を診る		専任		
第12回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第13回	2	基礎・臨床・理学療法分野	基礎分野を踏まえて呼吸器疾患の臨床分野を診る		専任		
第14回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第15回	2	基礎・臨床・理学療法分野	臨床分野を踏まえて呼吸器疾患の理学療法を診る		専任		
第16回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第17回	2	基礎・臨床・理学療法分野	基礎分野を踏まえて脳血管障害(急性期)の臨床分野を診る		専任		
第18回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第19回	2	基礎・臨床・理学療法分野	臨床分野を踏まえて脳血管障害(急性期)の理学療法を診る		専任		
第20回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第21回	2	基礎・臨床・理学療法分野	基礎分野を踏まえて脳血管障害の臨床分野を診る		専任		
第22回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第23回	2	基礎・臨床・理学療法分野	臨床分野を踏まえて脳血管障害の理学療法を診る		専任		
第24回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第25回	2	基礎・臨床・理学療法分野	基礎分野を踏まえて神経難病の臨床分野を診る		専任		
第26回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第27回	2	基礎・臨床・理学療法分野	臨床分野を踏まえて神経難病の理学療法を診る		専任		
第28回	2	基礎・臨床・理学療法分野	〃		専任		
第29回	2	基礎・臨床・理学療法分野	まとめ①		専任		
第30回	2	基礎・臨床・理学療法分野	まとめ②		専任		

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	責任者	臂 貴紀
32	× : 非該当	理学療法評価技術論	開講時期 2年後期		
			授業時間 120		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業		単位数 4 単位	演習
科目概要・目的 整形障害・神経障害・内部障害の臨床を10年以上経験している講師による授業で、理学療法士が臨床上対応することの多い代表的な疾患について他の講義での断片的に学んだ基礎や臨床的分野について統合を図る。知識の形成とともに臨床的思考・国家試験への対応力を向上させる。				教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
				キーワード	
				①設定症例への検査法 ②機能障害の解釈 ③医学的所見 ④情報収集 ⑤問題点抽出 ⑥目標設定	
教育目標該当項目 ①②③					
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第31回	2	医学的所見と評価方法	整形疾患での医学的所見・評価法を知る①		専任
第32回	2	医学的所見と評価方法	整形疾患での医学的所見・評価法を知る②		専任
第33回	2	医学的所見と評価方法	整形疾患での医学的所見・評価法を知る③		専任
第34回	2	医学的所見と評価方法	循環器疾患での医学的所見・評価法を知る①		専任
第35回	2	医学的所見と評価方法	循環器疾患での医学的所見・評価法を知る②		専任
第36回	2	医学的所見と評価方法	循環器疾患での医学的所見・評価法を知る③		専任
第37回	2	医学的所見と評価方法	神経疾患での医学的所見・評価法を知る①		専任
第38回	2	医学的所見と評価方法	神経疾患での医学的所見・評価法を知る②		専任
第39回	2	医学的所見と評価方法	神経疾患での医学的所見・評価法を知る③		専任
第40回	2	動作とバイオメカニクス	各疾患の動作の特徴と原因を知る①		専任
第41回	2	動作とバイオメカニクス	各疾患の動作の特徴と原因を知る②		専任
第42回	2	動作とバイオメカニクス	各疾患の動作の特徴と原因を知る③		専任
第43回	2	動作とバイオメカニクス	各疾患の動作の特徴と原因を知る④		専任
第44回	2	動作とバイオメカニクス	各疾患の動作の特徴と原因を知る⑤		専任
第45回	2	まとめ	まとめ④		専任
第46回	2	まとめ	まとめ⑤		専任
第47回	2	リスク管理	整形疾患でのリスク管理を知る①		専任
第48回	2	リスク管理	整形疾患でのリスク管理を知る②		専任
第49回	2	リスク管理	整形疾患でのリスク管理を知る③		専任
第50回	2	リスク管理	循環器疾患でのリスク管理を知る①		専任
第51回	2	リスク管理	循環器疾患でのリスク管理を知る②		専任
第52回	2	リスク管理	循環器疾患でのリスク管理を知る③		専任
第53回	2	リスク管理	神経疾患でのリスク管理を知る①		専任
第54回	2	リスク管理	神経疾患でのリスク管理を知る②		専任
第55回	2	リスク管理	神経疾患でのリスク管理を知る③		専任
第56回	2	総まとめ1	本講義を国試過去問を踏まえて理学療法士として必要な知識を再確認する。		専任
第57回	2	総まとめ2	本講義を国試過去問を踏まえて理学療法士として必要な知識を再確認する。		専任
第58回	2	総まとめ3	本講義を国試過去問を踏まえて理学療法士として必要な知識を再確認する。		専任
第59回	2	総まとめ4	本講義を国試過去問を踏まえて理学療法士として必要な知識を再確認する。		専任
第60回	2	総まとめ5	本講義を国試過去問を踏まえて理学療法士として必要な知識を再確認する。		専任
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)⑨成果物(小テスト結果)⑪反復学習の実施(学習ドリル等)を評価する。評価指標の詳細については講義初回で提示する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	担当者	菊地 潤
33	× : 非該当	整形障害理学療法	開講時期 2年前期 授業時間 60		
授業形態 ハイフレックス		☑実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院、診療所にて15年間の実務経験を活かした授業で、新人理学療法士として勤務する上で必要と思われる、骨・関節・筋・神経に生じる代表的な整形外科疾患の病態、機能障害、評価および治療戦略を理解する。特に加齢に伴う変性疾患を中心とした高齢者の運動器障害と負荷特性や動作特異性に起因する軟部組織障害を比較的に学修し、病態の違いが理学療法の展開にどのような差をもたらすか説明ができるようになることを目的とする。				教科書(著者/書名/発行所) 加藤浩 編集／Crosslink 理学療法学 テキスト 運動器障害理学療法学／メジカルビュー社	
				キーワード ①各疾患の病態 ②各疾患の理学療法評価 ③各疾患の理学療法	
				教育目標該当項目 ②③④	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員	
第1回	2	骨折・骨粗鬆症	骨折治癒過程・高齢者の骨折を説明できる	菊地	
第2回	2	変性疾患・炎症性疾患	進行過程・相違点・病態とADL制限を説明できる	菊地	
第3回	2	神経症状を伴う整形疾患	発生機序・神経症状と障害部位を説明できる	菊地	
第4回	2	スポーツ傷害・外傷	発生要因・成長期障害の特徴を説明できる	菊地	
第5回	2	理学療法の展開方法	流れ・病態から機能障害の推論を理解する	菊地	
第6回	2	高齢者腰痛・腰部脊柱管狭窄症	病態と症状を説明できる	菊地	
第7回	2	腰椎椎間板ヘルニア	神経症状の機序を説明できる	菊地	
第8回	2	腰椎分離・すべり症	成長期障害の発生機序を説明できる	菊地	
第9回	2	胸椎機能と腰痛、頸椎症	運動連鎖を説明できる	菊地	
第10回	2	一般的な運動療法	胸腰椎	菊地	
第11回	2	腱板損傷	保存療法の考え方を説明できる	菊地	
第12回	2	スポーツ肩関節障害	投球障害の発生機序を説明できる	菊地	
第13回	2	肩関節周囲炎	病態別特徴を説明できる	菊地	
第14回	2	上肢疾患比較	高齢者と若年者の違いを整理できる	菊地	
第15回	2	一般的な運動療法	肩関節	菊地	
第16回	2	変形性股関節症	病態と歩行異常を説明できる	菊地	
第17回	2	大腿骨頸部骨折	術後理学療法の流れを説明できる	菊地	
第18回	2	股関節疾患の術後	術後理学療法の流れを説明できる	菊地	
第19回	2	スポーツ股関節障害	グロインペインの機序を説明できる	菊地	
第20回	2	一般的な運動療法	股関節	菊地	
第21回	2	変形性膝関節症	力学的要因を説明できる	菊地	
第22回	2	膝関節疾患の術後	術後理学療法の流れを説明できる	菊地	
第23回	2	膝前十字靱帯損傷	発生機序と理学療法を説明できる	菊地	
第24回	2	半月板損傷	年齢差による病態を説明できる	菊地	
第25回	2	一般的な運動療法	膝関節	菊地	
第26回	2	高齢者足部変形	転倒との関連を説明できる	菊地	
第27回	2	足関節捻挫	発生機序と理学療法を説明できる	菊地	
第28回	2	アキレス腱障害	負荷との関係を説明できる	菊地	
第29回	2	一般的な運動療法	足関節	菊地	
第30回	2	総括	まとめ	菊地	
評価方法		評価指標にて⑧成果物、⑨小テストにより評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二	
34	× : 非該当	神経障害理学療法 (うち30時間)	開講時期	2年前期			
			授業時間	60			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士としての20年以上の経験と一般病院・回復期病院・整形外科クリニックや訪問リハビリ等での実務経験を活かした授業で、解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。					教科書(著者/書名/発行所)		
					医療情報科学研究所／編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア		
					キーワード		
教育目標該当項目 ②③④					脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS TBI、脳腫瘍、認知障害、 高次脳機能障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	片麻痺について①	片麻痺患者の回復過程			高澤	
第2回	2	片麻痺について②	片麻痺患者の急性期			高澤	
第3回	2	片麻痺について③	片麻痺患者の回復期① 高次脳機能障害・認知症			高澤	
第4回	2	片麻痺について④	片麻痺患者の回復期② 前庭性めまい			高澤	
第5回	2	片麻痺について⑤	片麻痺患者の維持期			高澤	
第6回	2	片麻痺患者の姿勢	片麻痺患者の姿勢メカニズムと代償			高澤	
第7回	2	片麻痺患者の動作①	片麻痺患者の 寝返り・起き上がりのメカニズムと代償			高澤	
第8回	2	片麻痺患者の動作②	片麻痺患者の 立ち上がりのメカニズムと代償			高澤	
第9回	2	片麻痺患者の歩行	片麻痺患者の歩行メカニズムと代償			高澤	
第10回	2	片麻痺患者の治療①	BSRⅠ～Ⅱへの治療			高澤	
第11回	2	片麻痺患者の治療②	BSRⅡ～Ⅲへの治療			高澤	
第12回	2	片麻痺患者の治療③	BSRⅢ～Ⅳへの治療			高澤	
第13回	2	片麻痺患者の治療④	BSRⅣ～Ⅴへの治療			高澤	
第14回	2	片麻痺患者の治療⑤	BSRⅤ～Ⅵへの治療			高澤	
第15回	2	総括	まとめ			高澤	
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)、⑦成果物(講義中に作成したノート)、⑨成果物(小テスト結果)、⑪反復学習実施状況(学習ドリル等)を評価する。					
科目全体の 評価方法		この科目は別に示す神経障害理学療法(担当: 臂)との合算評価とする。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	臂 貴紀	
34	×：非該当	神経障害理学療法 (うち30時間)	開講時期	2年前期			
			授業時間	60			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院・訪問看護ステーション・デイサービスにて15年間の実務経験を活かした授業で、解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。					教科書(著者/書名/発行所)		
					医療情報科学研究所／編集「病気がみえる7 脳・神経」メディックメディア 水間正澄/リハビリテーション医療に活かす画像のみかた/南江堂		
					キーワード 脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS TBI、脳腫瘍、認知障害、 高次脳機能障害		
教育目標該当項目 ②③④							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第16回	2	パーキンソン病	運動障害と非運動障害のリハビリテーションを理解する。			臂	
第17回	2	〃	重症度や薬効用に合わせたリハビリテーションを理解する。			臂	
第18回	2	〃	ケーススタディ			臂	
第19回	2	筋萎縮性側索硬化症	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌を理解する。			臂	
第20回	2	〃	呼吸状態に合わせて、人工呼吸器管理、吸引、排痰の方法について理解する。			臂	
第21回	2	多発性硬化症	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌理解する。			臂	
第22回	2	〃	ステロイド療法等、医学的治療に合わせた理学療法の関わり方を理解する。			臂	
第23回	2	〃	ケーススタディ			臂	
第24回	2	脊髄小脳変性症	協調運動障害のリハビリテーションを理解する。			臂	
第25回	2	〃	SCDの分類ごとのリハビリテーションを理解する。			臂	
第26回	2	重症筋無力症・多発性筋炎	重症度に合わせたリハビリテーションと禁忌を理解する。			臂	
第27回	2	外傷性脳損傷・脳腫瘍	重症度に合わせたリハビリテーションを理解する。 画像所見から理学療法の注意点リスクを理解する。 失語症も含み理解する。			臂	
第28回	2	筋ジストロフィー	病態生理・症状、筋電図等の検査所見を理解する。 各病型の特長を理解する。			臂	
第29回	2	〃	各病型の進行の速度と程度を理解する。			臂	
第30回	2	〃	病期・病型に合わせた理学療法を理解する。			臂	
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)⑨成果物(小テスト結果)⑪反復学習の実施(学習ドリル等)を評価する。評価指標の詳細については講義初回で提示する。					
科目全体の評価方法		この科目は別に示す神経障害理学療法(担当：高澤)との合算評価とする。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	担当者	山野井 裕子
35	× : 非該当	内部障害理学療法	開講時期 2年前期		
			授業時間 60		
授業形態 ハイフレックス		☑実務経験のある教員による授業		単位数 2 単位	演習
科目概要・目的 近年、生活習慣病を基盤とした内部障害系疾患は増加の一途をたどっている。内部障害は文字通り、その障害が外から見えにくいため、病態の理解が重要となる。本授業では、担当者が理学療法士として病院・介護保険施設に20年間勤務した経験に基づき、呼吸器・循環器・代謝・腎泌尿器疾患の病態を理解しリスク管理を行いながら適切な理学療法を行えるよう講義を行う。				教科書(著者/書名/発行所) 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版(南江堂)、モニター心電図(照林社) キーワード 呼吸器疾患、心電図、循環器疾患、代謝疾患、リスク管理	
教育目標該当項目 ②③④					
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標	担当教員	
第1回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器の解剖・生理	山野井	
第2回	2	循環器疾患に対する理学療法	運動負荷試験と最大酸素摂取量	山野井	
第3回	2	循環器疾患に対する理学療法	Metsと動作・活動	山野井	
第4回	2	循環器疾患に対する理学療法	心筋梗塞急性期の理学療法	山野井	
第5回	2	循環器疾患に対する理学療法	心筋梗塞回復期・維持期の理学療法	山野井	
第6回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全の理学療法	山野井	
第7回	2	循環器疾患に対する理学療法	脈管疾患の理学療法	山野井	
第8回	2	循環器疾患に対する理学療法	心電図1	山野井	
第9回	2	循環器疾患に対する理学療法	心電図2	山野井	
第10回	2	循環器疾患に対する理学療法	ケーススタディ	山野井	
第11回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器の解剖・生理	山野井	
第12回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸不全の病態	山野井	
第13回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸機能検査	山野井	
第14回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	慢性閉塞性肺疾患の評価	山野井	
第15回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	慢性閉塞性肺疾患の理学療法	山野井	
第16回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	その他呼吸器疾患の評価と理学療法	山野井	
第17回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	体位排痰法	山野井	
第18回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸介助	山野井	
第19回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	ケーススタディ	山野井	
第20回	2	代謝疾患に対する理学療法	代謝の基礎	山野井	
第21回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の定義と診断	山野井	
第22回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の急性合併症と慢性合併症	山野井	
第23回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の評価	山野井	
第24回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の理学療法	山野井	
第25回	2	代謝疾患に対する理学療法	ケーススタディ	山野井	
第26回	2	腎障害に対する理学療法	腎臓の解剖・生理	山野井	
第27回	2	腎障害に対する理学療法	慢性腎臓病と理学療法	山野井	
第28回	2	腎障害に対する理学療法	ケーススタディ	山野井	
第29回	2	救急救命医学	AED	山野井	
第30回	2	救急救命医学	救急救命の実際	山野井	
評価方法		⑥成果物(講義資料)、⑦成果物(講義中に作成したノート)、⑨小テスト結果、⑪学習ドリル等の評価 する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	高森 正祥
36	○:該当	物理療法	開講時期	2年前期		
			授業時間	30		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として整形外科病院、一般病院、大学病院にて12年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。					教科書(著者/書名/発行所) 理学療法学テキストⅩ 物理療法 九州神陵文庫	
教育目標該当項目 ②③					キーワード 電気刺激療法・電磁波療法・光線療法 法・超音波療法・水治療法・牽引療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	物理療法総論	総論及び物理療法の適応の多い病態の理解		高森	
第2回	2	温熱療法①	温熱療法概論・表在熱を利用した物理療法について		高森	
第3回	2	温熱療法②	深部温熱を利用した物理療法について		高森	
第4回	2	寒冷療法①	総論・一般寒冷療法について		高森	
第5回	2	寒冷療法②	極低温療法について		高森	
第6回	2	光線療法	総論・紫外線・赤外線・レーザー光線療法について		高森	
第7回	2	水治療法	総論・全身浴・部分浴について		高森	
第8回	2	電気刺激療法①	総論及び理論・効果について		高森	
第9回	2	電気刺激療法②	電気刺激療法各論		高森	
第10回	2	牽引療法	牽引療法の理論と実際について		高森	
第11回	2	講義まとめ・実技準備	物理療法に関する知識の振り返り・機器確認		高森	
第12回	2	物理療法 実技①	当校所有の物理療法機器を実際に操作し、適応法、注意事項を理解する		高森	
第13回	2	物理療法 実技②			高森	
第14回	2	物理療法 実技③			高森	
第15回	2	物理療法 実技④			高森	
評価方法		評価指標にて⑥成果物(講義資料)、⑦成果物(講義中に作成したノート)を評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	担当者	時田 幸之輔
37	○:該当	義肢・装具学	開講時期 2年前期		
			授業時間 30		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業		単位数 1 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として総合病院5年間の実務経験を活かした授業。義肢・装具が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。義肢・装具について医師や義肢装具士などと十分な議論を交わすことのできる能力は、作成する能力以上に求められる。授業では、様々な義肢・装具の適応と特性について理解することを目標とする。				教科書(著者/書名/発行所)	
				「装具学」医歯薬出版	
				「切断と義肢」医歯薬出版	
教育目標該当項目 ②③				キーワード	
				切断、大腿義足、股義足、下腿義足 末梢神経損傷、脊髄損傷 骨関節疾患、中枢神経疾患	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	切断	切断原因・切断部位について説明出来る。		時田
第2回	2	義足の部品	義足の膝継手・足継手について説明出来る。		時田
第3回	2	大腿義足ソケット	各種大腿義足ソケットについて説明出来る。		時田
第4回	2	大腿義足のアライメント-1	大腿義足のベンチアライメント、静的アライメントについて説明出来る。		時田
第5回	2	大腿義足のアライメント-2	大腿義足の動的アライメントについて説明出来る。		時田
第6回	2	下腿義足のソケット	各種下腿義足ソケットについて説明出来る。		時田
第7回	2	下腿義足のアライメント	下腿義足の各種アライメントについて説明出来る。		時田
第8回	2	股義足	股義足のソケット・アライメントについて説明出来る。		時田
第9回	2	装具学総論	装具の目的と力学的基礎について説明出来る。		時田
第10回	2	末梢神経損傷 に対する上肢装具	末梢神経損傷に対する上肢装具について説明出来る。		時田
第11回	2	脊髄損傷 に対する上下肢装具	脊髄損傷に対する上下肢装具について説明出来る。		時田
第12回	2	骨折に対する下肢装具	骨折に対する免荷装具について説明出来る。		時田
第13回	2	体幹装具	各種体幹装具について説明出来る。		時田
第14回	2	脳血管障害片麻痺 に対する下肢装具	片麻痺に対する下肢装具の適応について説明出来る。		時田
第15回	2	義肢・装具と患者ADL	他職種との連携と患者ADL向上について説明出来る。		時田
評価方法		義肢領域、装具領域に分けてまとめテストを実施し評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二
38	×:非該当	理学療法技術論Ⅰ	開講時期	3年前期		
			授業時間	180		
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	4 単位
科目概要・目的 一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、臨床実習にて経験・関わることの多い運動器疾患や呼吸循環器疾患、脳血管障害、神経筋疾患について、その基礎医学や臨床医学に基づいて症状や現症や日常生活を理解する。それらの疾患についての評価方法や理学療法専門領域について理解する。また理学療法全体を通して観察や分析などに必要な力学的な視点や運動による生体反応を理解する。					演習	
					教科書(著者/書名/発行所)	
					講義開始前に指定する	
教育目標該当項目 ②③					キーワード	
					①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:心臓の解剖・動脈の解剖		山野井	
第2回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:静脈の解剖・リンパ管の解剖		山野井	
第3回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:血液・心臓生理		山野井	
第4回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:循環制御・運動生理		山野井	
第5回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:脈管病理・血圧測定		山野井	
第6回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:画像・血液所見・聴診・心電図		山野井	
第7回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:冠疾患・冠疾患リハ		山野井	
第8回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:心不全・心疾患・心不全・心疾患リハ		山野井	
第9回	2	基礎と臨床医学の繋がり	循環器:脈管疾患・内部その他		山野井	
第10回	2	基礎と臨床医学の繋がり	呼吸器:呼吸器解剖・換気生理		山野井	
第11回	2	基礎と臨床医学の繋がり	呼吸器:呼吸運動・呼吸器疾患		山野井	
第12回	2	基礎と臨床医学の繋がり	呼吸器:スパイロメータ・フローボリューム曲線		山野井	
第13回	2	基礎と臨床医学の繋がり	呼吸器:画像・聴診・分類		山野井	
第14回	2	基礎と臨床医学の繋がり	呼吸器:COPD リハ・体位ドレナージ		山野井	
第15回	2	基礎と臨床医学の繋がり	呼吸器:吸引・人工呼吸器		山野井	
第16回	2	基礎と臨床医学の繋がり	呼吸器:呼吸リハその他・脳血管		山野井	
第17回	2	基礎と臨床医学の繋がり	中枢:大脳・大脳基底核		高澤	
第18回	2	基礎と臨床医学の繋がり	中枢:大脳辺縁系・脳その他		高澤	
第19回	2	基礎と臨床医学の繋がり	中枢:脊髄反射弓・神経伝達物質		高澤	
第20回	2	基礎と臨床医学の繋がり	中枢:体性感覚・脳波		高澤	
第21回	2	基礎と臨床医学の繋がり	CVA:CVA 一般症状・CVA 視床病変		高澤	
第22回	2	基礎と臨床医学の繋がり	CVA:CVA クモ膜下出血・水頭症・CVA その他症状		高澤	
第23回	2	基礎と臨床医学の繋がり	CVA:画像・評価		高澤	
第24回	2	基礎と臨床医学の繋がり	CVA:高次脳機能障害・肩手症候群		高澤	
第25回	2	基礎と臨床医学の繋がり	CVA:急性期・一般的な理学療法		高澤	
第26回	2	基礎と臨床医学の繋がり	CVA:装具・外傷性脳損傷		高澤	
第27回	2	基礎と臨床医学の繋がり	CVA:臨床判断・PD		高澤	
第28回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:PD・リハ・SCD		臂	
第29回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:SCD・リハ・MS		臂	
第30回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:MS・リハ・GBS		臂	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二
38	×:非該当	理学療法技術論Ⅰ	開講時期	3年前期		
			授業時間	180		
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	4 単位
科目概要・目的		一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、臨床実習にて経験・関与することの多い運動器疾患や呼吸循環器疾患、脳血管障害、神経筋疾患について、その基礎医学や臨床医学に基づいて症状や現症や日常生活を理解する。それらの疾患についての評価方法や理学療法専門領域について理解する。また理学療法全体を通して観察や分析などに必要な力学的な視点や運動による生体反応を理解する。			演習	
					教科書(著者/書名/発行所)	
					講義開始前に指定する	
					キーワード	
教育目標該当項目					①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法	
②③						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第31回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:GBS・リハ・ALS		臂	
第32回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:ALS・リハ・MG		臂	
第33回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:ニューロパチー(CMT)・多発性筋炎		臂	
第34回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:めまい・筋ジス		臂	
第35回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:筋ジス・リハ・その他 疾患		臂	
第36回	2	基礎と臨床医学の繋がり	神経筋疾患:その他 リハ・総論		臂	
第37回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脳幹・脳神経:視覚・視覚器・聴覚・聴覚器		臂	
第38回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脳幹・脳神経:口腔(嚥下・味覚)・顎運動		臂	
第39回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脳幹・脳神経:嚥下障害・ワレンベルグ症候群		臂	
第40回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脳幹・脳神経:顔面の解剖生理・顔面のMMT		臂	
第41回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脳幹・脳神経:顔面神経麻痺・脊髄(伝導路)解剖		臂	
第42回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:脊損 疾患 部分損傷・脊損 疾患 その他		小池	
第43回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:脊損 合併症 自律神経過反射・脊損 合併症 異所性骨化		小池	
第44回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:脊損 合併症 その他・脊損 疾患評価 Frankel		小池	
第45回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:脊損 疾患評価 ASIA・脊損 疾患評価 Zancolli		小池	
第46回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:髄節別 ADLなど C5・髄節別 ADLなど C6		小池	
第47回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:髄節別 ADLなど C7・髄節別 ADLなど その他		小池	
第48回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:髄節判定・脊損PT 画像所見		小池	
第49回	2	基礎と臨床医学の繋がり	脊損:脊損PT 一般問題・二分脊椎		小池	
第50回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:骨 総論・関節・靱帯 総論		小池	
第51回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:筋 生理・筋 付着部		小池	
第52回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:触診・その他・皮膚		小池	
第53回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:股関節・膝関節		小池	
第54回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:下腿～足関節～足部・肩関節		小池	
第55回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:肘関節・前腕～手～指		小池	
第56回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:体幹・頭部・基礎 その他		小池	
第57回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:整形テスト・筋長テスト・画像所見		菊地	
第58回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:ROM訓練・筋力増強		菊地	
第59回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:RA 疾患・合併症・評価・RA 変形・ADL・リハ		菊地	
第60回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:骨折 疾患・骨折 合併症		菊地	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二	
38	×:非該当	理学療法技術論Ⅰ	開講時期	3年前期			
			授業時間	180			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	4 単位	演習
科目概要・目的 一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、臨床実習にて経験・関わることの多い運動器疾患や呼吸循環器疾患、脳血管障害、神経筋疾患について、その基礎医学や臨床医学に基づいて症状や現症や日常生活を理解する。それらの疾患についての評価方法や理学療法専門領域について理解する。また理学療法全体を通して観察や分析などに必要な力学的な視点や運動による生体反応を理解する。					教科書(著者/書名/発行所)		
					講義開始前に指定する		
					キーワード		
教育目標該当項目 ②③					①機能・構造 ②疾患		
					③障害 ④検査・測定		
					⑤理学療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第61回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:骨折 リハ・OA 疾患		菊地		
第62回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:OA リハ・ACL リハ		菊地		
第63回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:軟部組織損傷 疾患・軟部組織損傷 リハ		菊地		
第64回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:ヘルニア・狭窄症 疾患・ヘルニア・狭窄症 リハ		菊地		
第65回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:脊柱 リハ その他・基礎物理 用語		菊地		
第66回	2	基礎と臨床医学の繋がり	バイオ:力学 計算・立位姿勢		臂		
第67回	2	基礎と臨床医学の繋がり	バイオ:歩行・運動分析		臂		
第68回	2	基礎と臨床医学の繋がり	バイオ:異常歩行・BI・FIM採点、評価		臂		
第69回	2	基礎と臨床医学の繋がり	ADL:疾患別 ADL・車椅子		小川		
第70回	2	基礎と臨床医学の繋がり	ADL:環境整備・諸ADL定義		小川		
第71回	2	基礎と臨床医学の繋がり	ADL:杖・その他ADL		高澤		
第72回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:ROM 測定法 3点・ROM 測定法 1点 基本軸・移動軸		高澤		
第73回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:ROM 測定法 1点 肢位・ROM 参考可動域		高澤		
第74回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:ROM 特殊・ROM その他		高澤		
第75回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:MMT 測定法 3点・MMT 測定法 1点 肢位		菊地		
第76回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:MMT 測定法 1点 その他・MMT 代償		菊地		
第77回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:MMT 触診・MMT その他		菊地		
第78回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:形態測定・感覚検査		菊地		
第79回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:反射・バランス評価		高澤		
第80回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:老研式・尺度		高澤		
第81回	2	基礎と臨床医学の繋がり	評価:その他評価・評価結果判断		高澤		
第82回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第83回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第84回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第85回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第86回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第87回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第88回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第89回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
第90回	2	基礎と臨床医学の繋がり	各分野まとめ		持田		
評価方法		科目ルーブリックにて、小テスト結果・反復学習実施状況・総合テストを評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二	
39	×:非該当	理学療法技術論Ⅱ	開講時期	3年後期			
			授業時間	180			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	6 単位	演習
科目概要・目的 一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、臨床実習や理学療法技術論Ⅰでの学習を活かし、理学療法の専門領域である物理療法や装具学などについて改めて理解を深める。また理学療法適応患者さんに多い合併症への対応力や小児等の幅広い疾患に対する理解を深める。 理学療法全体を通して介護保険等の社会資源や制度についても理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所)		
					講義開始前に指定する		
					キーワード		
					①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法 ⑥力学 ⑦制度		
教育目標該当項目 ②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	基礎と臨床医学の繋がり	消化器:消化器解剖・門脈		持田		
第2回	2	基礎と臨床医学の繋がり	消化器:消化生理・排便機構		持田		
第3回	2	基礎と臨床医学の繋がり	消化器:消化器疾患(肝・膵)・消化器疾患(消化管)		持田		
第4回	2	基礎と臨床医学の繋がり	代謝:代謝 解剖・生理・DM・他		山野井		
第5回	2	基礎と臨床医学の繋がり	代謝:DM リハ・代謝リハ 計算など		山野井		
第6回	2	基礎と臨床医学の繋がり	代謝:代謝リハ その他・泌尿器解剖		山野井		
第7回	2	基礎と臨床医学の繋がり	泌尿器:泌尿器生理・排尿 神経機構		持田		
第8回	2	基礎と臨床医学の繋がり	泌尿器:慢性腎不全・慢性腎不全リハ		持田		
第9回	2	基礎と臨床医学の繋がり	末梢神経:総論・走行・神経叢		小池		
第10回	2	基礎と臨床医学の繋がり	末梢神経:筋神経支配・感覚支配		小池		
第11回	2	基礎と臨床医学の繋がり	末梢神経:運動単位・神経伝導		小池		
第12回	2	基礎と臨床医学の繋がり	末梢神経:神経線維・筋収縮		小池		
第13回	2	基礎と臨床医学の繋がり	末梢神経:末梢神経障害の病態・症状		小池		
第14回	2	基礎と臨床医学の繋がり	末梢神経:末梢神経障害 評価・リハ・ポリオ リハ		小池		
第15回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:ACL リハ・軟部組織損傷 疾患		菊地		
第16回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:軟部組織損傷 リハ・ヘルニア・狭窄症 疾患		菊地		
第17回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:ヘルニア・狭窄症 リハ・脊柱 リハ その他		菊地		
第18回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:切断 疾患・切断 リハ		菊地		
第19回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:熱傷 疾患・熱傷 リハ		菊地		
第20回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:骨端症・CRPS		菊地		
第21回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:骨粗鬆症・その他運動器疾患		菊地		
第22回	2	基礎と臨床医学の繋がり	運動器:整形リハ その他・正常発達		菊地		
第23回	2	基礎と臨床医学の繋がり	小児:原始反射・CP		小松		
第24回	2	基礎と臨床医学の繋がり	小児:その他小児リハ・加齢変化		小松		
第25回	2	臨床医学と理学療法	補装具:上肢装具・体幹装具		臂		
第26回	2	臨床医学と理学療法	補装具:靴型装具・SLB		臂		
第27回	2	臨床医学と理学療法	補装具:SHB・膝継手・部品など		臂		
第28回	2	臨床医学と理学療法	補装具:長下肢装具・その他下肢装具		臂		
第29回	2	臨床医学と理学療法	補装具:大腿義足部品・大腿義足ADL		臂		
第30回	2	臨床医学と理学療法	補装具:その他義足・BI・FIM採点、評価		臂		

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二
39	×:非該当	理学療法技術論Ⅱ	開講時期	3年		
			授業時間	180		
授業形態		ハイフレックス			☑実務経験のある教員による授業	
単位数					6 単位	演習
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)	
一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、臨床実習や理学療法技術論Ⅰでの学習を活かし、理学療法の専門領域である物理療法や装具学などについて改めて理解を深める。また理学療法適応患者さんに多い合併症への対応力や小児等の幅広い疾患に対する理解を深める。					講義開始前に指定する	
理学療法全体を通して介護保険等の社会資源や制度についても理解を深める。					キーワード	
教育目標該当項目					①機能・構造 ②疾患	
②③					③障害 ④検査・測定	
					⑤理学療法 ⑥力学	
					⑦制度	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第31回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	ADL:疾患別 ADL・車椅子		小川	
第32回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	ADL:環境整備・諸ADL定義		小川	
第33回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	ADL:杖・その他ADL		小川	
第34回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	物療:温熱療法・極超短波		小池	
第35回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	物療:寒冷療法・超音波療法		小池	
第36回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	物療:電気刺激療法・水治療法		小池	
第37回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	物療:電気生理学的検査・疾患別		小池	
第38回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	物療:その他物療・防衛機制		小池	
第39回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:心理テスト・検査・心理療法・人物名		小川	
第40回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:心理的発達・記憶		小川	
第41回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:転移・逆転移・面接・症状		小川	
第42回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:統合失調症・うつ病		小川	
第43回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:てんかん・アルコール依存症		小川	
第44回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:小児・PTSD・神経症		小川	
第45回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:認知症・薬物療法		小川	
第46回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	精神心理:その他精神医学・地域・介護保険系		小川	
第47回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	概論:PTOT法・個人情報保護法		小川	
第48回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	概論:その他 法律・制度・福祉 用語		小川	
第49回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	概論:ICF・ICIDH・標準予防策		小川	
第50回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	概論:感染症・クリニカルパス		小川	
第51回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	概論:対応・その他・病理		小川	
第52回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	腫瘍:腫瘍 疾患 脳腫瘍・腫瘍 疾患 その他		持田	
第53回	2	臨床医学と理学療法の繋がり	腫瘍:腫瘍 リハ		持田	
第54回	2	臨床実習を通しての学び	呼吸器系疾患と基礎医学・理学療法		山野井	
第55回	2	臨床実習を通しての学び	呼吸器系疾患と基礎医学・理学療法		山野井	
第56回	2	臨床実習を通しての学び	呼吸器系疾患と基礎医学・理学療法		山野井	
第57回	2	臨床実習を通しての学び	呼吸器系疾患と基礎医学・理学療法		山野井	
第58回	2	臨床実習を通しての学び	循環器系疾患と基礎医学・理学療法		山野井	
第59回	2	臨床実習を通しての学び	循環器系疾患と基礎医学・理学療法		山野井	
第60回	2	臨床実習を通しての学び	循環器系疾患と基礎医学・理学療法		山野井	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二	
39	× : 非該当	理学療法技術論Ⅱ	開講時期	3年			
			授業時間	180			
授業形態		ハイフレックス	☑実務経験のある教員による授業		単位数	6 単位	演習
科目概要・目的 一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員により理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、臨床実習や理学療法技術論Ⅰでの学習を活かし、理学療法の専門領域である物理療法や装具学などについて改めて理解を深める。また理学療法適応患者さんに多い合併症への対応力や小児等の幅広い疾患に対する理解を深める。 理学療法全体を通して介護保険等の社会資源や制度についても理解を深める。					教科書(著者/書名/発行所)		
					講義開始前に指定する		
					キーワード		
					①機能・構造 ②疾患 ③障害 ④検査・測定 ⑤理学療法 ⑥力学 ⑦制度		
教育目標該当項目 ②③							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第61回	2	臨床実習を通しての学び	末梢神経障害と基礎医学・理学療法		小池		
第62回	2	臨床実習を通しての学び	末梢神経障害と基礎医学・理学療法		小池		
第63回	2	臨床実習を通しての学び	末梢神経障害と基礎医学・理学療法		小池		
第64回	2	臨床実習を通しての学び	末梢神経障害と基礎医学・理学療法		小池		
第65回	2	臨床実習を通しての学び	末梢神経障害と基礎医学・理学療法		小池		
第66回	2	臨床実習を通しての学び	末梢神経障害と基礎医学・理学療法		小池		
第67回	2	臨床実習を通しての学び	末梢神経障害と基礎医学・理学療法		小池		
第68回	2	臨床実習を通しての学び	脳血管障害と基礎医学・理学療法		高澤		
第69回	2	臨床実習を通しての学び	脳血管障害と基礎医学・理学療法		高澤		
第70回	2	臨床実習を通しての学び	脳血管障害と基礎医学・理学療法		高澤		
第71回	2	臨床実習を通しての学び	脳血管障害と基礎医学・理学療法		高澤		
第72回	2	臨床実習を通しての学び	脳血管障害と基礎医学・理学療法		高澤		
第73回	2	臨床実習を通しての学び	脳血管障害と基礎医学・理学療法		高澤		
第74回	2	臨床実習を通しての学び	神経筋疾患と基礎医学・理学療法		臂		
第75回	2	臨床実習を通しての学び	神経筋疾患と基礎医学・理学療法		臂		
第76回	2	臨床実習を通しての学び	神経筋疾患と基礎医学・理学療法		臂		
第77回	2	臨床実習を通しての学び	神経筋疾患と基礎医学・理学療法		臂		
第78回	2	臨床実習を通しての学び	神経筋疾患と基礎医学・理学療法		臂		
第79回	2	臨床実習を通しての学び	神経筋疾患と基礎医学・理学療法		臂		
第80回	2	臨床実習を通しての学び	神経筋疾患と基礎医学・理学療法		臂		
第81回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第82回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第83回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第84回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第85回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第86回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第87回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第88回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第89回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
第90回	2	臨床実習を通しての学び	整形疾患と基礎医学と理学療法		菊地		
評価方法		科目ルーブリックにて、小テスト結果・反復学習実施状況・総合テストを評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二		
40	×:非該当	理学療法技術論Ⅲ	開講時期	3年				
			授業時間	180				
授業形態		ハイフレックス			☑実務経験のある教員による授業			
科目概要・目的						単位数	6 単位	演習
一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員による講義で、3年間の講義や臨床実習での学習を活かし、理学療法士として求められる基本的な資質・能力を理解し、社会と理学療法士の役割を理解する。また今後臨床で関わる疾患の基礎医学、臨床医学を理解し、それらの理学療法専門領域について考えることができる。						教科書(著者/書名/発行所)		
						講義開始前に指定する		
						キーワード		
教育目標該当項目						①機能・構造 ②疾患		
②③						③障害 ④検査・測定		
						⑤理学療法 ⑥力学		
						⑦制度		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標				担当教員	
第1回	2	医学と理学療法	循環器:心臓の解剖 動脈の解剖 静脈の解剖				山野井	
第2回	2	医学と理学療法	循環器:リンパ管の解剖 血液 心臓生理				山野井	
第3回	2	医学と理学療法	循環器:循環制御 運動生理 脈管病理				山野井	
第4回	2	医学と理学療法	循環器:血圧測定 画像・血液所見・聴診 心電図				山野井	
第5回	2	医学と理学療法	循環器:冠疾患 冠疾患リハ 心不全・心疾患				山野井	
第6回	2	医学と理学療法	循環器:心不全・心疾患リハ 脈管疾患 その他				山野井	
第7回	2	医学と理学療法	呼吸器:呼吸器解剖 換気生理 呼吸運動				山野井	
第8回	2	医学と理学療法	呼吸器:疾患 スパイロメータ フローボリューム				山野井	
第9回	2	医学と理学療法	呼吸器:画像・聴診 分類 COPD リハ				山野井	
第10回	2	医学と理学療法	呼吸器:体位ドレナージ 吸引 人工呼吸器				山野井	
第11回	2	医学と理学療法	呼吸器:呼吸リハその他 消化器解剖 門脈				山野井	
第12回	2	医学と理学療法	消化器:消化生理 排便機構 消化器疾患(肝・膵)				持田	
第13回	2	医学と理学療法	消化器:消化器疾患 代謝 解剖・生理 DM・他				持田	
第14回	2	医学と理学療法	代謝:DM リハ 代謝リハ 代謝リハ その他				山野井	
第15回	2	医学と理学療法	泌尿器:泌尿器解剖 泌尿器生理 排尿 神経機構				持田	
第16回	2	医学と理学療法	泌尿器:慢性腎不全 慢性腎不全リハ 脳血管				持田	
第17回	2	医学と理学療法	中枢:大脳 大脳基底核 大脳辺縁系				高澤	
第18回	2	医学と理学療法	中枢:脳その他 脊髄反射弓 神経伝達物質				高澤	
第19回	2	医学と理学療法	中枢:体性感覚 脳波 CVA 一般症状				高澤	
第20回	2	医学と理学療法	CVA:視床病変 クモ膜下出血・水頭症 その他				高澤	
第21回	2	医学と理学療法	CVA:画像 評価 高次脳機能障害				高澤	
第22回	2	医学と理学療法	CVA:肩手症候群 急性期 一般的な理学療法				高澤	
第23回	2	医学と理学療法	CVA:装具 外傷性脳損傷 臨床判断				高澤	
第24回	2	医学と理学療法	神経筋疾患:PD PD・リハ SCD				臂	
第25回	2	医学と理学療法	神経筋疾患:SCD・リハ MS MS・リハ				臂	
第26回	2	医学と理学療法	神経筋疾患:GBS GBS・リハ ALS				臂	
第27回	2	医学と理学療法	神経筋疾患:ALS・リハ MG ニューロパチー				臂	
第28回	2	医学と理学療法	神経筋疾患:多発性筋炎 めまい 筋ジス				臂	
第29回	2	医学と理学療法	神経筋疾患:筋ジス・リハ その他				臂	
第30回	2	医学と理学療法	脳幹・脳神経:総論 視覚・視覚器 聴覚・聴覚器				臂	

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二		
40	× : 非該当	理学療法技術論Ⅲ	開講時期	3年				
			授業時間	180				
授業形態		ハイフレックス			☑実務経験のある教員による授業			
科目概要・目的					単位数 6 単位		演習	
一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員による講義で、3年間の講義や臨床実習での学習を活かし、理学療法士として求められる基本的な資質・能力を理解し、社会と理学療法士の役割を理解する。また今後臨床で関わる疾患の基礎医学、臨床医学を理解し、それらの理学療法専門領域について考えることができる。					教科書(著者/書名/発行所)			
					講義開始前に指定する			
					キーワード			
教育目標該当項目					①機能・構造 ②疾患			
②③					③障害 ④検査・測定			
					⑤理学療法 ⑥力学			
					⑦制度			
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員		
第31回	2	医学と理学療法	脳幹・脳神経:嚥下・味覚	顎運動	嚥下障害	臂		
第32回	2	医学と理学療法	脳幹・脳神経:フレンベルグ	顔面の解剖生理	MMT	臂		
第33回	2	医学と理学療法	脳幹・脳神経:顔面神経麻痺	伝導路	脊損 疾患	臂		
第34回	2	医学と理学療法	脊損:疾患	自律神経過反射	合併症 異所性骨化	小池		
第35回	2	医学と理学療法	脊損:疾患評価 Frankel	脊損 疾患評価	ASIA	小池		
第36回	2	医学と理学療法	脊損:疾患評価 Zancolli	髄節別	ADLなど C5C6	小池		
第37回	2	医学と理学療法	脊損:髄節別	ADLなど C7その他	髄節判定	小池		
第38回	2	医学と理学療法	脊損:画像所見	脊損PT	一般問題	二分脊椎	小池	
第39回	2	医学と理学療法	末梢神経:総論	走行・神経叢	筋神経支配		小池	
第40回	2	医学と理学療法	末梢神経:感覚支配	運動単位	神経伝導		小池	
第41回	2	医学と理学療法	末梢神経:神経線維	筋収縮	病態		小池	
第42回	2	医学と理学療法	末梢神経:障害の症状	評価・リハ	ポリオ リハ		小池	
第43回	2	医学と理学療法	運動器:骨	総論	関節・靱帯	総論	筋 生理	小池
第44回	2	医学と理学療法	運動器:筋	付着部	触診・その他	皮膚		小池
第45回	2	医学と理学療法	運動器:股関節	膝関節	下腿～足関節～足部			小池
第46回	2	医学と理学療法	運動器:肩関節	肘関節	前腕～手～指			小池
第47回	2	医学と理学療法	運動器:体幹・頭部	基礎	その他	整形・筋長テスト		小池
第48回	2	医学と理学療法	運動器:画像所見	ROM訓練	筋力増強			菊地
第49回	2	医学と理学療法	運動器:RA	疾患・評価・ADL・リハ	骨折 疾患			菊地
第50回	2	医学と理学療法	運動器:骨折	合併症	骨折 リハ	OA 疾患		菊地
第51回	2	医学と理学療法	運動器:OA	リハ	ACL リハ	軟部組織損傷 疾患		菊地
第52回	2	医学と理学療法	運動器:軟部組織損傷	ヘルニア・狭窄症	リハ			菊地
第53回	2	医学と理学療法	運動器:脊柱	リハ	切断 疾患	切断 リハ		菊地
第54回	2	医学と理学療法	運動器:熱傷	疾患	熱傷 リハ	骨端症		菊地
第55回	2	医学と理学療法	運動器:CRPS	骨粗鬆症	その他運動器疾患			菊地
第56回	2	医学と理学療法	運動器:整形リハ	その他	正常発達	原始反射		菊地
第57回	2	医学と理学療法	小児:CP	その他小児リハ	加齢変化			臂
第58回	2	医学と理学療法	バイオ:基礎物理	用語	力学 計算	立位姿勢		臂
第59回	2	医学と理学療法	バイオ:歩行	運動分析	異常歩行			臂
第60回	2	医学と理学療法	補装具:上肢装具	体幹装具	靴型装具			臂

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二	
40	×:非該当	理学療法技術論Ⅲ	開講時期	3年			
			授業時間	180			
授業形態		ハイフレックス			☑実務経験のある教員による授業		
科目概要・目的					単位数 6 単位 演習		
一般病院・クリニック・老人施設などで15年以上の経験を有する教員による講義で、3年間の講義や臨床実習での学習を活かし、理学療法士として求められる基本的な資質・能力を理解し、社会と理学療法士の役割を理解する。また今後臨床で関わる疾患の基礎医学、臨床医学を理解し、それらの理学療法専門領域について考えることができる。					教科書(著者/書名/発行所)		
					講義開始前に指定する		
					キーワード		
教育目標該当項目					①機能・構造 ②疾患		
②③					③障害 ④検査・測定		
					⑤理学療法 ⑥力学		
					⑦制度		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第61回	2	医学と理学療法	補装具:SLB	SHB	膝継手・部品など	臂	
第62回	2	医学と理学療法	補装具:長下肢装具	その他	大腿義足部品	臂	
第63回	2	医学と理学療法	補装具:大腿義足ADL	BI・FIM採点、評価		臂	
第64回	2	医学と理学療法	ADL:疾患別	ADL	車椅子 環境整備	小川	
第65回	2	医学と理学療法	ADL:諸ADL定義	杖	その他ADL	小川	
第66回	2	医学と理学療法	物療:温熱療法	極超短波	寒冷療法	小池	
第67回	2	医学と理学療法	物療:超音波療法	電気刺激療法	水治療法	小池	
第68回	2	医学と理学療法	物療:電気生理学的検査	疾患別	その他物療	小池	
第69回	2	医学と理学療法	評価:ROM 測定法	基本軸・移動軸	肢位	高澤	
第70回	2	医学と理学療法	評価:ROM 参考可動域	ROM 特殊	その他	高澤	
第71回	2	医学と理学療法	評価:MMT 測定法			高澤	
第72回	2	医学と理学療法	評価:MMT 代償	MMT 触診	MMT その他	高澤	
第73回	2	医学と理学療法	評価:形態測定	感覚検査	反射	高澤	
第74回	2	医学と理学療法	評価:バランス評価	老研式	尺度	高澤	
第75回	2	医学と理学療法	評価:その他評価	評価結果判断	統計	高澤	
第76回	2	医学と理学療法	精神心理:防衛機制	心理テスト	心理療法・人物名	小川	
第77回	2	医学と理学療法	精神心理:心理的発達	記憶	転移・逆転移・面接	小川	
第78回	2	医学と理学療法	精神心理:症状	統合失調症	うつ病	小川	
第79回	2	医学と理学療法	精神心理:てんかん	アルコール依存症	小児	小川	
第80回	2	医学と理学療法	精神心理:PTSD・神経症	認知症	薬物療法	小川	
第81回	2	医学と理学療法	精神心理:精神医学	地域・介護保険系	PTOT法	小川	
第82回	2	医学と理学療法	概論:個人情報保護法	法律・制度	福祉 用語	小川	
第83回	2	医学と理学療法	概論:ICF・ICIDH	標準予防策	感染症	小川	
第84回	2	医学と理学療法	概論:クリニカルパス	対応・その他	病理	小川	
第85回	2	医学と理学療法	腫瘍:腫瘍 疾患	脳腫瘍	腫瘍 リハ	持田	
第86回	2	医学と理学療法	その他:運動学習	内分泌疾患	免疫 炎症	持田	
第87回	2	医学と理学療法	その他:自律神経	発生	細胞基礎代謝	持田	
第88回	2	医学と理学療法	その他:薬物療法	長期臥床・褥瘡	廃用症候群	持田	
第89回	2	医学と理学療法	その他:体温	アレルギー	ビタミン欠乏症	予防医学	持田
第90回	2	医学と理学療法	その他:萎縮	:CPM	生活習慣病	その他分類難	持田
評価方法		科目ルーブリックにて、小テスト結果・反復学習実施状況・総合テストを評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	
41	×：非該当	日常生活活動学	開講時期	2年前期	小川 紀子	
			授業時間	60		
授業形態		対面	☑実務経験のある教員による授業		単位数	4 単位
科目概要・目的 日常生活活動(ADL)は、障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念である。その概念とQOLについて理解し、各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。理学療法士として一般病院5年間、介護老人保健施設の実務経験を活かした授業である。					講義	
					教科書(著者/書名/発行所)	
					鶴見隆正 編「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」医学書院 木村哲彦 編「イラストによる安全な動作介助の手引き」医歯薬出版	
					キーワード	
教育目標該当項目 ②③④⑤⑥					ADL、IADL、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具、家族への指導	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	日常・生活・活動とは	日常・生活・活動について理解する。		小川	
第2回	2	ADLの概念	ADLの概念・分類について理解する。		小川	
第3回	2	ADLの範囲	APDL・IADLについて理解する。		小川	
第4回	2	ADLとQOL	ADLとQOLの関係について理解する。		小川	
第5回	2	QOL評価法	QOLの評価法について理解する。		小川	
第6回	2	ADLと運動学①	運動を左右する条件について理解する。		小川	
第7回	2	ADLと運動学②	代償運動について理解する。		小川	
第8回	2	ADLと運動学③	動作分析とADL指導について理解する。		小川	
第9回	2	できるADL・しているADL	できるADL・しているADL・目標とするADLについて理解する。		小川	
第10回	2	ADL評価のチェックポイント①	食事・整容・更衣動作のチェックポイントを理解する。		小川	
第11回	2	ADL評価のチェックポイント②	トイレ・入浴・移動動作のチェックポイントを理解する。		小川	
第12回	2	各疾患のADL指導①	片麻痺・脊髄損傷のADL指導について理解する。		小川	
第13回	2				小川	
第14回	2	各疾患のADL指導②	脳性麻痺・関節リウマチのADL指導について理解する。		小川	
第15回	2				小川	
第16回	2	各疾患のADL指導③	人工股関節術後・下肢切断のADL指導について理解する。		小川	
第17回	2				小川	
第18回	2	各疾患のADL指導④	呼吸器・循環器疾患のADL指導について理解する。		小川	
第19回	2				小川	
第20回	2	各疾患のADL指導⑤	神経筋疾患・難病・視覚障害のADL指導について理解する。		小川	
第21回	2				小川	
第22回	2	動作介助①	動作介助の意義・介助の原則を理解する。 ボディメカニクス・介助の程度を理解する。		小川	
第23回	2				小川	
第24回	2	動作介助②	代表的な姿勢・ポジショニング・シーティング ベッド上移動・寝返りの介助方法		小川	
第25回	2				小川	
第26回	2	動作介助③	起き上がり・立ち上がりの介助方法 トランスファー(移乗)		小川	
第27回	2				小川	
第28回	2	動作介助④	歩行介助・階段昇降介助 事例を用いた応用的な介助・援助の実践		小川	
第29回	2				小川	
第30回	2	国家試験対策	国家試験過去問題演習と解説		小川	
評価方法		評価指標③グループワーク発表、⑨小テストの結果、動作介助実技試験で評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	菊地 裕美
42	○:該当	地域リハビリテーションⅠ	開講時期	2年前期		
			授業時間	15		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 1 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として5年以上の経験に基づいて、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。					教科書(著者/書名/発行所)	
					重森 健太「地域リハビリテーション学第2版」羊土社	
					キーワード 地域リハビリテーションの理念、介護保険法、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム	
教育目標該当項目 ②③④⑤						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	地域リハビリテーションの理念・歴史	地域リハビリテーションの理念と歴史的背景、現在の動向について理解する。		菊地	
第2回	2	地域リハビリテーション関連法規	介護保険法について理解する。		菊地	
第3回	2	地域リハビリテーション関連法規	障害者総合支援法について理解する。		菊地	
第4回	2	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムの考え方、実際について理解する。		菊地	
第5回	2	地域における社会資源	社会福祉協議会など、地域における社会資源について理解する。		菊地	
第6回	2	地域理学療法	地域における理学療法の必要性を理解し、介入根拠を説明できる。		菊地	
第7回	2	地域理学療法	地域における理学療法の評価・治療について説明できる。		菊地	
第8回	2	地域における連携	地域リハビリテーションに関連する専門職種を理解し、連携方法を理解する。		菊地	
評価方法		課題の提出状況及び試験の結果を総合的に判断する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	菊地 裕美
43	○:該当	地域リハビリテーションⅡ	開講時期	3年前期		
			授業時間	15		
授業形態 対面		☑実務経験のある教員による授業			単位数 1 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として15年以上の経験に基づいて、地域リハビリテーションの中で、理学療法士が行う実践活動を見学するまた、グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。					教科書(著者/書名/発行所)	
					重森 健太「地域リハビリテーション学第2版」羊土社	
					キーワード	
教育目標該当項目 ②④⑤⑥					地域での関わり、生活期、予防・健康増進	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	地域における介入方法の実際	施設での理学療法		菊地	
第2回	2	地域における介入方法の実際	施設での理学療法		菊地	
第3回	2	地域における介入方法の実際	通所理学療法		菊地	
第4回	2	地域における介入方法の実際	通所理学療法		菊地	
第5回	2	地域における介入方法の実際	訪問理学療法		菊地	
第6回	2	地域における介入方法の実際	訪問理学療法		菊地	
第7回	2	地域における介入方法の実際	疾病、再発、障害予防		菊地	
第8回	2	地域における介入方法の実際	疾病、再発、障害予防		菊地	
評価方法		課題の提出状況及び試験の結果を総合的に判断する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	菊地 潤
44	○:該当	臨床実習Ⅰ	開講時期	1年通年		
			授業時間	45		
授業形態		対面	□実務経験のある教員による授業		単位数	1 単位
					実習	
科目概要・目的 社会人・実習生としての意識を高め、必要な態度や行動を身につけるとともに、小グループワークにおいて他者(学生間)・指導者(担当教員)とのコミュニケーション能力を高める。 病院の機能・組織、チーム医療の中での理学療法業務(役割・責任)について理解する。					教科書(著者/書名/発行所)	
					指定しない	
					キーワード	
教育目標該当項目					対人関係技法・医療面接・インフォームドコンセント・個人情報、情報管理	
①④⑤⑥						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	病院における機能・組織、理学療法業務についてまた医療に従事する者としてソーシャルスキルについて学び、ディスカッションすることにより理解を深める。	・指導者(担当教員)の指導・監督のもと、病院における機能・組織、理学療法業務について学び、小グループにてディスカッションする。 ・関連施設の臨床現場を見学する見学実習として、臨床において起こりうる事例を通して、見学前後に必要な知識、態度や行動について事前に考え、小グループにてディスカッションする。			
第2回	2					
第3回	2					
第4回	2					
第5回	2					
第6回	2					
第7回	2					
第8回	2					
第9回	2					
第10回	2					
第11回	2					
第12回	2					
第13回	2					
第14回	2					
第15回	2					
第16回	2					
第17回	2					
第18回	2					
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	2					
第44回	2					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	小川紀子
45	○:該当	臨床実習Ⅱ	開講時期	2年後期		
			授業時間	270		
授業形態 対面		□実務経験のある教員による授業			単位数 6 単位	実習
科目概要・目的 基本的な心構えを実践し、施設の職員とのコミュニケーションを通じ、チーム医療の中での理学療法業務の内容とその流れを把握できる。実習指導者の診療に参加し、見学や検査・測定体験を通して、臨床現場においてより一層の理解を深める。また参加症例の疾患・障害を考慮した適切な検査・測定を実施し、その結果から実習指導者が考える臨床的解釈・障害像を理解する。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
					キーワード	
					検査、測定・記録、報告	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	実習指導者と共に様々な参加症例の診療に参加し、理学療法の見学及び検査・測定を体験する。また実習指導者とともに参加症例への理解を深める。	・理学療法業務の見学・参加またはコミュニケーションや問診等を通じ、医療に従事する者としてのソーシャルスキルを身につける。 ・参加症例の状況を把握するために、実習指導者が考える必要な情報(診療録等からの間接的情報、検査・測定等による直接的情報)とその理由について理解する。 ・検査測定実習であり、様々な参加症例を対象に疾患や障害を考慮した基本的な検査・測定方法を実習指導者の指導のもと学ぶ。 ・基本的な検査・測定結果に対する実習指導者が考える臨床的解釈・障害像を理解する。			
第2回	2					
第3回	2					
第4回	2					
第5回	2					
第6回	2					
第7回	2					
第8回	2					
第9回	2					
第10回	2					
第11回	2					
第12回	2					
第13回	2					
第14回	2					
第15回	2					
第16回	2					
第17回	2					
第18回	2					
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	2					
第44回	2					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	小川紀子	
46	○:該当	臨床実習Ⅲ	開講時期	2年後期			
			授業時間	270			
授業形態 対面		□実務経験のある教員による授業			単位数	6 単位	実習
科目概要・目的 実習指導者のもと、理学療法実施に際し倫理的・専門職の観点に立った責任について学習し、臨床における理学療法の実施に必要な資質及び実技を習得する。理学療法評価の見学・体験を通して、参加症例の疾患・障害を考慮した適切な検査・測定を実施し、その結果から実習指導者が考える臨床的解釈・障害像と問題解決に向けた仮説(目標設定・理学療法計画)を理解する。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない		
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					キーワード 医学的情報の理解・問題点の抽出・全体像の把握		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	実習指導者と共に様々な参加症例の診療に参加し、理学療法の見学及び検査・測定を体験する。また実習指導者とともに参加症例への理解を深める。	・理学療法業務の見学・参加またはコミュニケーションや問診等を通じ、医療に従事する者としてのソーシャルスキルを身につける。 ・参加症例の状況を把握するために、実習指導者が考える必要な情報(診療録等からの間接的情報、検査・測定等による直接的情報)とその理由について理解する。 ・様々な参加症例を対象に、疾患や障害を考慮した基本的な検査・測定方法を実習指導者の指導のもと学ぶ。 ・基本的な検査・測定結果に対する実習指導者が考える臨床的解釈・障害像を理解する。 上記の臨床実習Ⅱの【実習内容および目標】に、以下を追加する。 ・参加症例が抱える問題の解決に向けた実習指導者が考える目標設定・理学療法計画を理解する評価実習である。				
第2回	2						
第3回	2						
第4回	2						
第5回	2						
第6回	2						
第7回	2						
第8回	2						
第9回	2						
第10回	2						
第11回	2						
第12回	2						
第13回	2						
第14回	2						
第15回	2						
第16回	2						
第17回	2						
第18回	2						
第19回	2						
第20回	2						
第21回	2						
第22回	2						
第23回	2						
第24回	2						
第25回	2						
第26回	2						
第27回	2						
第28回	2						
第29回	2						
第30回	2						
第31回	2						
第32回	2						
第33回	2						
第34回	2						
第35回	2						
第36回	2						
第37回	2						
第38回	2						
第39回	2						
第40回	2						
第41回	2						
第42回	2						
第43回	2						
第44回	2						
第45回	2						
評価方法		臨床実習要綱に従う					

コード番号	企業との連携	科目名	分野 専門	責任者	高澤 洋二
47	○:該当	臨床実習Ⅳ	開講時期 3年前期 授業時間 45		
授業形態 対面		□実務経験のある教員による授業		単位数 1 単位	実習
科目概要・目的 介護保険制度における地域理学療法の場合での経験を通して、地域包括ケアシステム(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション)における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職種の役割を理解する。				教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥				キーワード 地域理学療法・介護保険法・Community-based-rehabilitation・地域包括ケア	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
第1回	2	介護保険制度における地域理学療法の場合での経験を通して、地域包括ケアシステム(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション)における理学療法士の役割を理解する。	・通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学することができる。 ・通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験することができる。 ・ケアプランの立案過程を見学することができる。		
第2回	2				
第3回	2				
第4回	2				
第5回	2				
第6回	2				
第7回	2				
第8回	2				
第9回	2				
第10回	2				
第11回	2				
第12回	2				
第13回	2				
第14回	2				
第15回	2				
第16回	2				
第17回	2				
第18回	2				
第19回	2				
第20回	2				
第21回	2				
第22回	2				
第23回	2				
第24回	2				
第25回	2				
第26回	2				
第27回	2				
第28回	2				
第29回	2				
第30回	2				
第31回	2				
第32回	2				
第33回	2				
第34回	2				
第35回	2				
第36回	2				
第37回	2				
第38回	2				
第39回	2				
第40回	2				
第41回	2				
第42回	2				
第43回	2				
第44回	2				
第45回	2				
評価方法		臨床実習要綱に従う			

令和5年5月1日記入

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	責任者	高澤 洋二
48	○:該当	臨床実習Ⅴ	開講時期	3年		
			授業時間	270		
授業形態 対面		□実務経験のある教員による授業			単位数 6 単位	実習
科目概要・目的 実習指導者の指示・監督のもとで、参加症例が個々に有する問題を解決するための情報収集、理学療法評価、問題点抽出、目標設定、治療プログラム立案、治療の実施、治療効果判定という一貫した理学療法の体験ならびに必要な記録ができる。					教科書(著者/書名/発行所) 指定しない	
教育目標該当項目 ③④⑤⑥					キーワード	
					目標の設定・治療プログラム立案・他部門との連携	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員
第1回	2	実習指導者と共に様々な参加症例の診療に参加し、理学療法評価をもとに理学療法介入を一部体験する。また実習指導者と共に参加症例への理解を深める。	・理学療法業務の見学・参加またはコミュニケーションや問診等を通じ、医療に従事する者としてのソーシャルスキルを身につける。 ・参加症例の状況を把握するために、実習指導者が考える必要な情報(診療録等からの間接的情報、検査・測定等による直接的情報)とその理由について理解する。 ・様々な参加症例を対象に、疾患や障害を考慮した基本的な検査・測定方法を実習指導者の指導のもと学ぶ。 ・基本的な検査・測定結果に対する実習指導者が考える臨床的解釈・障害像を理解する。 ・参加症例が抱える問題の解決に向けた実習指導者が考える目標設定・理学療法計画を理解する ・参加症例に対する実習指導者が考える理学療法について理解し、実習指導者の指導・監督のもと基本的理学療法を実践する。 ・参加症例に対する実習指導者による理学療法の見学時の様子や学生が実施した基本的理学療法実施中等の様子より理学療法の効果を学ぶ。			
第2回	2					
第3回	2					
第4回	2					
第5回	2					
第6回	2					
第7回	2					
第8回	2					
第9回	2					
第10回	2					
第11回	2					
第12回	2					
第13回	2					
第14回	2					
第15回	2					
第16回	2					
第17回	2					
第18回	2					
第19回	2					
第20回	2					
第21回	2					
第22回	2					
第23回	2					
第24回	2					
第25回	2					
第26回	2					
第27回	2					
第28回	2					
第29回	2					
第30回	2					
第31回	2					
第32回	2					
第33回	2					
第34回	2					
第35回	2					
第36回	2					
第37回	2					
第38回	2					
第39回	2					
第40回	2					
第41回	2					
第42回	2					
第43回	2					
第44回	2					
第45回	2					
評価方法		臨床実習要綱に従う				